

# 簡易文法書

## 目次

名詞 .....	1
形容詞 .....	10
代名詞 .....	19
数詞 .....	33
動詞 .....	35
副詞 .....	59
前置詞 .....	64
接続詞 .....	71
語順 .....	77

## 名詞

デンマーク語の名詞は文法上の性（共性／中性）を有し、数（単数／複数）、限定・非限定（既知形／未知形）、格（共格／所有格）に関して変化し、これらは数、限定・非限定、格の順で語形の中に実現される。

### 1. 名詞の性

デンマーク語の名詞は文法上の性により共性名詞と中性名詞の2つに分類される。

例： 共性名詞：blomst〈花〉 — 中性名詞：hus〈家〉

名詞の文法上の性が、重要であるのは、その違いによって、冠詞や形容詞などにおける呼応変化に違いが生じるからである。

例： 共性名詞：en gul blomst〈ある黄色い花〉 — 中性名詞：et gult hus〈ある黄色い家〉

名詞がどの性に属するかということに関しては明確な法則性はないので、個々の名詞について具体的に記憶するしかない。しかし、語尾によってその名詞が共性名詞であるか中性名詞であるかが見極められる場合がいくつかあるので、ここに紹介しておく。

共性名詞：

語尾	例語
-else	følelse〈感覚；気持ち〉, overraskelse〈驚き〉, forelskelse〈恋〉
-dom	ejendom〈所有物；不動産〉, sygdom〈病気〉, alderdom〈老年期〉
-hed	lejlighed〈マンション；機会〉, begivenhed〈出来事〉, kærlighed〈愛〉
-inde	sangerinde〈女性歌手〉, veninde〈女性の友人〉, skuespillerinde〈女優〉
-ing	kvittering〈領収書〉, parkering〈駐車〉, betaling〈支払い〉
-ning	retning〈方向〉, bygning〈建物〉, slutning〈終わり〉
-sion	pension〈年金〉, diskussion〈議論〉, depression〈憂鬱〉
-tion	tradition〈伝統〉, station〈駅〉, invitation〈招待〉

ただし、いくつか例外もあるので注意すること。

例： et værelse〈部屋〉 など。

## 名 詞

中性名詞 :

語尾	例語
-eri	bageri <パン屋>, vaskeri <コインランドリー>, snyderi <騙すこと>
-um	gymnasium <ギムネーシヨム (普通高校)>, kollegium <寮>, ministerium <省>
-tek	diskotek <ディスコ>, bibliotek <図書館>, apotek <薬局>
-skab	ægteskab <結婚>, venskab <友情>, landskab <景色>

語尾 -skab に終わる語のほとんどが中性名詞であるが、例外もあるので注意すること。

例 : en videnskab <科学>

## 2. 名詞の数

名詞には単数形と複数形の区別がある。単数形は文中ではふつう、可算名詞の場合には不定冠詞を伴う。不定冠詞は共性では en, 中性では et である。

例 : 共性名詞 : en blomst <花> — 中性名詞 : et hus <家>

### 2.1. 名詞の複数形

デンマーク語の名詞の複数形の作り方には規則変化と不規則変化がある。規則変化には、ゼロ形 (= 見出し語形) に -er, -r, -e, -ゼロを付加する 4 つのタイプが存在する。

例 :

	共 性 名 詞		中 性 名 詞	
	単 数 形	複 数 形	単 数 形	複 数 形
(1) -er 型	blomst <花>	blomster	træ <木>	træer
(2) -r 型	gade <通り>	gader	æble <りんご>	æbler
(3) -e 型	stol <椅子>	stole	hus <家>	huse
(4) -ゼロ型	sko <靴>	sko	kort <カード>	kort

(1) -er 型の例 : 単数形に -er を付加する。

en bil <車> – biler, en by <町> – byer

et gardin <カーテン> – gardiner, et sted <場所> – steder

(2) -r 型の例 : 単数形に -r を付加する。

en nøgle <鍵> – nøgler, en pige <女の子> – piger

et billede <絵 ; 写真> – billeder, et værelse <部屋> – værelser

- (3) -e 型の例：単数形に -e を付加する。  
en dag〈日〉- dage, en dør〈ドア〉- døre  
et bord〈机〉- borde, et brev〈手紙〉- breve
- (4) -ゼロ型の例：単数形と複数形が同じ形態。  
en fisk〈魚〉- fisk, en mus〈ハツカネズミ〉- mus  
et spørgsmål〈質問〉- spørgsmål, et svar〈答え〉- svar

## 2.2. 母音交替を伴う複数形

デンマーク語の名詞には、複数形語尾を伴うことに加えて、さらに複数形で母音交替が起こるものがある。

- (1) -er 型の例：母音交替の起こった語幹に -er を付加する。  
en bog〈本〉- bøger, en tand〈歯〉- tænder, en ko〈雌牛〉- køer,  
en and〈あひる〉- ænder, en hånd〈手〉- hænder, en tå〈足の指〉- tæer
- (2) -r 型の例：母音交替の起こった語幹に -r を付加する。  
en bonde〈農民〉- bønder
- (4) -ゼロ型の例：母音交替の起こった語幹が複数形として用いられる。  
en mand〈男性；夫〉- mænd, en gås〈がちょう〉- gæs  
et barn〈子ども〉- børn

## 2.3. 数えられない名詞（不可算名詞）

デンマーク語の名詞には、単数形しか存在しない名詞がある。物質名詞や抽象名詞がそれに当たる。数えることのできない名詞なので、原則として、文中でも不定冠詞 en / et を伴わずに用いられる。

### 2.3.1. 物質名詞

例： vand〈水〉, sukker〈砂糖〉, vin〈ワイン〉, smør〈バター〉, ris〈お米〉 など。

### 2.3.2. 抽象名詞

例： kærlighed〈愛〉, fred〈平和〉, fattigdom〈貧困〉, frihed〈自由〉, kulde〈寒さ〉 など。

#### 注意！

抽象名詞がその直前に形容詞を伴う場合には、不定冠詞 en / et を伴う。

例： Der er en frygtelig fattigdom i landet. 〈その国にはひどい貧困がある。〉

## 名詞

### 3. 名詞の所有格

名詞の所有格は，[普通名詞+-s] あるいは [固有名詞+-s] のように作る．

[普通名詞+-s]：普通名詞は，未知形の場合も既知形の場合もある．

例： en kvindes liv〈ある女性の人生〉， kvindens liv〈その女性の人生〉

kvinders liv〈女性たちの人生〉， kvindernes liv〈それらの女性たちの人生〉

[固有名詞+-s]：

例： Danmarks dronning〈デンマークの女王〉， Peters kone〈ピーダの妻〉

#### 注意！

意味上1つのまとまりを形成する名詞句は，その最後に-sを付けることで所有格を作ることができる．

例： Frøken Jensens kogebog〈イェンスンさんの料理本〉

min fars bil〈私の父の車〉

Peter og Bentes far〈ピーダとベンテの父〉

#### 注意！

無声の摩擦音 ([s], [ʃ] など)に終わる名詞の所有格は，-es またはアポストロフィ (') あるいはアポストロフィ (') +s で作られる．

例： dette huses / hus' / hus's ejer〈この家の持ち主〉

Hanses / Hans' / Hans's datter〈ハンスの娘〉

### 4. 名詞の限定・非限定

名詞には，上で見たように，不定冠詞 en / et が付く場合に加えて，何も冠詞がつかない場合，そして定冠詞がつく場合がある．ここでは，定冠詞が付く場合について述べる．

#### 4.1. 名詞既知形（名詞+後置定冠詞）

名詞が単独で現れ，しかもその名詞が指し示す対象が何か分かっている場合には，名詞は既知形になる．名詞の既知形はゼロ形／未知形に変化語尾（場合によっては後置定冠詞と呼ぶこともある）を付加することで実現される．なお，この形態は名詞の前に形容詞が置かれていない場合に使われるものである．

	単数	複数
共性	-(e)n	-(e)ne
中性	-(e)t	

**発音！**

名詞の単数中性既知形語尾の **-(e)t** はふつう **[-(ə)ð]** と発音される。

例：huset ['hu:səð], tæppet ['tæbəð]

しかし語幹（活用語尾を除いた部分）が **-d(e)** **[-ð(ə)]** で終わるときは、語尾の **-(e)t** は **[-(ə)d]** となる。

例：et billede ['beləðə] — billedet ['beləðəd]

なお、この場合 billedet ['beləðəð] という発音も可能である。

**4.2. 独立定冠詞＋形容詞＋名詞**

名詞が形容詞によって修飾されていて、しかもその名詞が指し示す対象が何か分かっている場合には、以下のように独立定冠詞 (**den / det / de**) を形容詞の直前に置く。

例：den moderne bil (the modern car) — de moderne biler (the modern cars)

det moderne hus (the modern house) — de moderne huse (the modern houses)

**5. 名詞の数，限定・非限定による変化パターン**

以下に、名詞が数，限定・非限定により変化する規則変化のパターンを示す。

**-er 型**：複数未知形 = 単数形 + er

例：

単数未知形	単数既知形	複数未知形	複数既知形
	-en / -et	-er	-er ne
en blomst	blomsten	blomster	blomsterne
et træ	træet	træer	træerne

**-r 型**：複数未知形 = 単数形 + r

例：

単数未知形	単数既知形	複数未知形	複数既知形
	-en / -et	-r	-r ne
en gade	gaden	gader	gaderne
et æble	æblet	æbler	æblerne

**-e 型**：複数未知形 = 単数形 + e

例：

単数未知形	単数既知形	複数未知形	複数既知形
	-en / -et	-e	-e ne
en stol	stolen	stole	stolene
et hus	huset	huse	husene

## 名 詞

ゼロ型：複数未知形 = 単数形 + 0 (=ゼロ)

例：

単数未知形	単数既知形	複数未知形	複数既知形
	-en / -et	-(ゼロ)	-(ゼロ)ene
en sko	skoen	sko	skoene
et kort	kortet	kort	kortene

### 5.1. 名詞の変化：注意の必要な名詞

語尾 -er に終わり、国籍、職業などといった人を表す名詞、動作主あるいはそれから転じて道具を表す名詞は、複数既知形を作る際には、複数未知形の語尾 -e を落とした後に既知形の語尾を付ける。

例：

単数未知形	単数既知形	複数未知形	複数既知形
	-en	-e	-ne
en japaner <日本人>	japaneren	japanere	japanerne
en lærer <教師>	læreren	lærere	lærerne
en oplukker <栓抜き>	oplukkeren	oplukkere	oplukkerne

### 5.2. 名詞の変化：子音字の重綴について

語末の音節が {強勢のある短母音 + 子音} となる名詞は、既知形、複数形などで子音字の重ね綴りをする。

例：

単数未知形	単数既知形	複数未知形	複数既知形
en bus <バス>	bussen	busser	busserne
en kop <カップ>	koppen	kopper	kopperne
en nat <夜>	natten	nætter	nætterne
et glas <コップ, グラス>	glasset	glas	glassene
et hotel <ホテル>	hotellet	hoteller	hotellerne

#### 注意！

デンマーク語では、このような同一子音字の重ね綴りは、それぞれの子音字（重なっている子音字）の直前か直後に必ず母音字がある場合にのみ可能である。

例：en bus - bussen

en bus は母音 [u] が短母音であるが、デンマーク語では en buss のように綴ることはない。それは母音字直後の s は直前に母音があるが、語末の s は直前にも直後にも母音字がないからである。

例：en bus - bussen ([u] は短母音) , en mus - musen ([u] は長母音)



したがって、上記の例からも分かるように、名詞の単数未知形では、外見上からは語幹母音 (bus と言うならば [u] ) が短母音なのか長母音なのかは見分けがつかない。辞書を引くときには特にこの点に注意する必要がある。

**例外！**

例外として、強勢のある語幹母音が長母音であるのに子音字の重ね綴りをする名詞も若干ある。

例：

単数未知形	単数既知形	複数未知形	複数既知形
en væg <壁>	væggen	vægge	væggene
et skæg <ひげ>	skægget	skæg	skæggene
et æg <タマゴ>	ægget	æg	æggene

### 5.3. 名詞の変化：語末音節中の -e- の省略について

大多数の語において、最終音節中の -e- [ə] はきわめて弱く発音される。そのため、語が -el, -en, -er で終わる場合、語形変化に際して、この後にさらに音節が続くと、この -e- [ə] はしばしば省略される。

例：

単数未知形	単数既知形	複数未知形	複数既知形
en cykel <自転車>	cyklen	cykler	cyklerne
en aften <夕方, 晩>	aft(e)nen	aft(e)ner	aft(e)nerne
en søster <姉妹>	søsteren	søstre	søstrene

さらに、-e- [ə] の直前に同一子音字が2個ある場合には、語形変化中にこの -e- [ə] の省略が起こると、上記同一子音字のうちの1個が脱落する。

例：

単数未知形	単数既知形	複数未知形	複数既知形
en himmel <空 ; 天国>	him(me)len	himle	himlene
en gaffel <フォーク>	gaffelen	gaffer	gafflerne
en fætter <(男の)いとこ>	fætteren	fætre	fætrene

さらに、上記2つのうち一方の変化に加えて、語形変化に母音交替を伴う名詞もある。

例：

単数未知形	単数既知形	複数未知形	複数既知形
en far / fader <父>	faren / faderen	fædre	fædrene
en mor / moder <母>	moren / moderen	mødre	mødrene
en datter <娘>	datteren	døtre	døtrene

## 名詞

### 5.4. 名詞の変化：語尾 **-um, -ium (-us)** に終わるもの

ラテン語の中性語尾 **-um, -ium** に終わる中性名詞は、規則変化（**-er** 型）をする  
が、単数既知形、複数未知形、複数既知形において、語尾 **-um, -ium** を落とした後に、  
数あるいは既知／未知の変化語尾を加える。

例：

単数未知形	単数既知形	複数未知形	複数既知形
et museum <美術館；博物館>	museet	museer	museerne
et verbum <動詞>	verbet	verber	verberne
et kollegium	kollegiet	kollegier	kollegierne
et ministerium	ministeriet	ministerier	ministerierne

類似の変化をするものに、ラテン語の語尾 **-us** に終わるものがある。

例：

単数未知形	単数既知形	複数未知形	複数既知形
et kursus <コース>	kurset	kurser	kurserne

### 6. 名詞に不定冠詞を付けない場合：

#### ① 国籍を表すとき

例：Jeg er japaner. <私は日本人です。>

Hun er dansker. <彼女はデンマーク人です。>

#### ② 職業を表すとき

例：Min mor er lærer. <私の母は教師です。>

Min far er musiker. <私の父はミュージシャンです。>

#### ③ {動詞＋名詞（句）} で1つのまとまりを表すとき：

例：Jeg ser fjernsyn. <私はテレビを見ています。>

Han hører radio. <彼はラジオを聞いています。>

Hun laver mad. <彼女は料理をします。>

Martin går i seng. <マーティンは寝ます。>

De går i skole. <彼らは学校に通っています。>

## 7. 名詞の未知形：用法

名詞の未知形は、名詞が指し示す対象物が不特定である場合に用いられる。

- ① 名詞が指し示す対象物が、文脈中で初めて言及される場合：

例：Der ligger et posthus henne på hjørnet. <その角に郵便局があります。>

Jeg så en film i går. <私は昨日ある映画を見ました。>

Jeg har taget nogle æbler og bananer med.

<私はいくつかの林檎とバナナを持ってきました。>

- ② 名詞が個々の対象物を指すのではなく、総称的に用いられる場合：

例：En skildepadde kan leve længe. <カメというものは長く生きます。>

Kvinder lever normalt længere end mænd. <女性はふつう男性よりも長生きします。>

## 8. 名詞の既知形：用法

名詞の既知形は、名詞が指し示す対象物が、何らかの要因によって、特定されている場合に用いられる。

- ① 名詞が指し示す対象物が、先行する文脈（状況）から明らかな場合：

例：Jeg så en film i går. Filmen var god.

<私は昨日ある映画を見た。その映画は面白かった。>

Jeg købte en bog i går. Anmeldelserne var gode, og prisen var rimelig.

<私は昨日ある本を買った。その批評も良く、そして値段は妥当であった。>

- ② 名詞が指し示す対象物が、世界に1つしか存在しない場合：

例：Solen skinner. <太陽が照っている。>

Månen lyser. <月が輝いている。>

- ③ 名詞が指し示す対象物が、話し手と聞き手にとって、予め分かっている場合：

例：Skal vi mødes ved stationen? <駅のそばで会いましょうか？>

Kan du ikke række mig saltet? <塩を取ってもらえませんか？>

Gider du ikke lige lukke vinduerne op? <ちょっと窓を開けてもらえませんか？>

Skal vi ikke tage bussen hjem? <バスで帰宅しませんか？>

- ④ 名詞が指し示す対象物が、体の一部である場合：

例：Han har ondt i hovedet. <彼は頭が痛い。>

Han har slået Hans i hovedet. <彼はハンスの頭を殴った。>

## 形容詞

形容詞の語形変化には、呼応変化と比較変化の2種類がある。

### 1. 形容詞：呼応変化

デンマーク語の形容詞は関連する名詞の性、数、限定・非限定（既知形・未知形）に応じて語形変化をする。これを呼応変化と呼び、その呼応変化語尾は下のとおりである。

未知形			既知形		
	単数	複数	単数	複数	
共性	-ゼロ	-e	共性	-e	
中性	-t		中性		

(例) ung <若い> [未知形・共性・単数]  
 ungt [未知形・中性・単数]  
 unge [未知形・複数] [既知形]

#### 1.1. 形容詞の未知形の用法

- (1) 冠詞を伴わない名詞の前

Det er godt vejr i dag. <今日はいいい天気です。>

- (2) 不定冠詞の後

en billig stol <安い椅子>, et billigt hus <安い家>

- (3) 不定代名詞の後

Her er nogle interessante bøger. <ここにいくつかの面白い本があります。>

- (4) 補語であるとき

Stolen er billig. — Stolene er billige.

Huset er billigt. — Husene er billige.

Kød er dyrt. <肉は高い。>

形容詞が補語であるとき、主語の名詞が未知形か既知形かということには関係なく、形容詞は未知形になることに注意。

- (5) 数詞の後（限定する語が先行しない場合）

Der er tre grønne æbler på bordet. <テーブルに青リンゴが3つあります。>

#### 1.2. 形容詞既知形の用法

- (1) 定冠詞の後。（独立定冠詞 (den / det / de) に強勢が置かれることはない。）

den billige stol — de billige stole

det billige hus — de billige huse

- (2) 指示代名詞の後（指示代名詞 (den / det / de) には常に強勢がある。）

den billige stol — de billige stole  
 <その／あの安い椅子> <それらの／あれらの安い椅子>

det billige hus — de billige huse  
 <その／あの安い家> <それらの／あれらの安い家>

denne billige stol — disse billige stole  
 <この安い椅子> <これらの安い椅子>

dette billige hus — disse billige huse  
 <この安い家> <これらの安い家>

- (3) 所有代名詞／人称代名詞の所有格の後

min gode ven — mine gode venner  
 <私の良い友人> <私の良い友人たち>

vores gode ven — vores gode venner  
 <私たちの良い友人> <私たちの良い友人たち>

- (4) 名詞の所有格の後

vennens dygtige søn — vennens dygtige sønner  
 <友人の有能な息子> <友人の有能な息子たち>

en vens dygtige søn — en vens dygtige sønner  
 <ある友人の有能な息子> <ある友人の有能な息子たち>

- (5) 数詞の後（限定する語が先行する場合）

De to røde biler er billige. <その2台の赤い車は安い。>

- (6) 呼びかけの表現の中

Kære ven! — Kære venner!  
 <親愛なる友よ！> <親愛なる友たちよ！>

- (7) 定冠詞省略法の名詞の前

Vi var i Danmark sidste år. <私たちは昨年デンマークにいました。>

- (8) 固有名詞を修飾する場合

Store Strandstræde <ストア・ストランストレーゼ>

### 1.3. 呼応変化の例外 (1)：形容詞 lille - små <小さい>

lille - små <小さい> は他の形容詞とは異なり，性，限定・非限定（既知・未知）による変化はせず，数による変化をするのみである。

	単数形	複数形
共性形	lille	små
中性形		

en lille stol — små stole  
 den lille stol — de små stole  
 et lille hus — små huse  
 det lille hus — de små huse

#### 1.4. 呼応変化の例外 (2) : 形容詞 hel - helt - hele <まるごとの, 完全な, 全体の>

形容詞 hel <まるごとの, 完全な, 全体の> では, 形容詞自体は, 他の形容詞と同じ変化をするが, 既知形変化の際には, 独立定冠詞 (den / det) を伴わずに, 修飾される名詞には後置定冠詞が付いたままとなる.

例 : Vi skal bruge en hel dag på at male stuen.

<私たちは居間のペンキを塗るために丸 1 日使います.>

Hun læste hele dagen i går. <彼女は昨日 1 日中勉強をしていました.>

Vi skal opholde os et helt år i Japan. <私たちは丸々 1 年, 日本に滞在します.>

Hun rejser rundt hele året. <彼女は 1 年中旅行しています.>

#### 1.5. 呼応変化の例外 (3) : -t 形 (のみ) を欠く形容詞

未知形・中性・単数形の語尾 -t を付加しない. つまり [未知形・中性・単数形] = [未知形・共性・単数形] となるものがある. 例えば以下の綴り字で終わるものがそうである.

① -t [-d] : let <軽い>, mæt <お腹が一杯の>, sort <黒い> etc.

例 : en sort kat <黒い猫> — et sort punkt <黒い点>

② -sk に終わるほとんどの語

dansk <デンマークの>, falsk <偽りの>, udenlandsk <外国の> etc.

例 : en dansk by <デンマークの町> — et dansk firma <デンマークの会社>

③ -isk :

nordisk <北欧の>, praktisk <実用的な>, politisk <政治的な> etc.

例 : en nordisk vinter <北欧の冬> — et nordisk land <北欧の国>

#### 注意!

形容詞が, (a) 単音節語で, (b) 人名・地名から派生したものではなく, (c) 本来語である場合は, 語尾が -sk あるいは -isk に終わっていても, -t 形も存在する.

: rask <元気な>, frisk <新鮮な>, barsk <荒れた> etc.

例 : en rask pige <元気な女の子> — et rask(t) barn <元気な子供>

④ -d に終わる語の一部 : glad <うれしい; 喜んでいる>, lærd <学識のある>, fremmed <見知らぬ> etc.

例 : en fremmed kvinde <見知らぬ女性> — et fremmed menneske <見知らぬ人>

#### 1.6. 呼応変化の例外 (4) : -e 形 (のみ) を欠く形容詞

未知形・複数形/既知形の語尾 -e を付加しない. つまり [未知形・共性・単数形] = [未知形・複数形/既知形] となるものがある. 例えば以下の綴り字で終わるものがそうである.

① -å に終わる語：blå〈青い〉, grå〈灰色の〉, rå〈生の〉 etc.

形容詞	名詞			
	単数		複数	
	共性	中性	共性	中性
blå				
未知形	en blå bog 〈青い本〉	et blå øje 〈青い目〉	blå bøger	blå øjne
既知形	den blå bog	det blå øje	de blå bøger	de blå øjne

② fri〈自由な〉 と ny〈新しい〉 の2語は、-e 形の使用は任意：

形容詞	名詞			
	単数		複数	
	共性	中性	共性	中性
fri				
未知形	en fri mand 〈自由な男〉	et frit land 〈自由な国〉	fri / frie mænd	fri / frie lande
既知形	den fri / frie mand	det fri / frie land	de fri / frie mænd	de fri / frie lande

形容詞	名詞			
	単数		複数	
	共性	中性	共性	中性
ny				
未知形	en ny bog	et nyt hus	ny / nye bøger	ny / nye huse
既知形	den ny / nye bog	det ny / nye hus	de ny / nye bøger	de ny / nye huse

### 1.7. 呼応変化の例外 (5)：-t 形と -e 形の両方を欠く形容詞

未知形・中性・単数形の語尾 -t を付加せず、また未知形・複数形／既知形の語尾 -e も付加しない。つまり全ての形態が [未知形・共性・単数形] と同じとなる。

① -e に終わる形容詞

bange〈恐れて、心配して〉, stille〈静かな〉, moderne〈現代の〉 etc.

形容詞	名詞			
	単数		複数	
	共性	中性	共性	中性
stille				
未知形	en stille gade	et stille barn	stille gader	stille børn
既知形	den stille gade	det stille barn	de stille gader	de stille børn

## 形容詞

② -ende に終わる形容詞：これらは本来、動詞の現在分詞である。

forbavsende <驚くべき>, spændende <ワクワクするような>, lovende <有望な> etc.

③ -s に終わる形容詞：gratis <無料の>, gammeldags <古風な>, fælles <共通の> etc.

### 注意！

ただし、tilfreds <満足している> などは例外で、-t 形も-e 形も存在する。

④ -å, -e 以外の母音字で終わる形容詞

snu <ずるい>, ekstra <余分の>, tro <信頼できる> etc.

## 1.8. 形容詞の変化：子音字の重綴について

語末の音節が強勢をもつ {短母音+子音} となる形容詞は、未知形・複数形そして既知形で（つまり-e 形では）子音字の重ね綴りをする。

形容詞	名詞			
	単数		複数	
	共性	中性	共性	中性
smuk <美しい>				
未知形	en smuk pige	et smukt land	smukke piger	smukke lande
既知形	den smukke pige	det smukke land	de smukke piger	de smukke lande

同様に子音字の重ね綴りをする形容詞

dum <馬鹿な>, grim <醜い>, nem <簡単な>, grøn <緑の>, flot <立派な> etc.

## 1.9. 形容詞の変化：語末音節中の -e- の省略について

大多数の語において、最終音節中の -e- [ə] はきわめて弱く発音される。そのため、語が -el, -en, -er で終わる場合、語形変化に際して、この後にさらに音節が続くと、この -e- [ə] は省略される。

形容詞	名詞			
	単数		複数	
	共性	中性	共性	中性
snæver <狭い>				
未知形	en snæver gade	et snævert rum <狭い空間>	snævre gader	snævre rum
既知形	den snævre gade	det snævre rum	de snævre gader	de snævre rum



同様に語末音節中の -e- [ə] の省略が起こる形容詞

enkel <簡単な>, nøgen <裸の>, voksen <成人の>, munter <ゆかいな> etc.

さらに, -e- [ə] の直前に同一子音字が2個ある場合には, 語形変化中にこの -e- [ə] の省略が起こると, 上記同一子音字のうちの1個が脱落する.

形容詞	名詞			
	単数		複数	
	共性	中性	共性	中性
gammel <古い; 年配の>				
未知形	en gammel by	et gammelt hus	gamle byer	gamle huse
既知形	den gamle by	det gamle hus	de gamle byer	de gamle huse

同様の語形変化を伴う形容詞

rådden <腐った>, frossen <冷凍の>, lækker <美味しい>, sikker <安全な> etc.

## 2. 形容詞：比較変化

比較変化とは, 形容詞の程度の差を表すための語形変化, つまり原級・比較級・最上級を表す語形変化のことである.

### 2.1. 語尾による比較変化

#### 2.1.1. 規則変化

(1) 比較級 = 原級 + -ere, 最上級 = 原級 + -est

原級	意味	比較級 -ere	最上級 -est
høj	高い	højere	højest
lav	低い	lavere	lavest
lækker	美味しい	lækrere	lækrest
smuk	美しい	smukkere	smukkest

例：Denne her røde blomst er smukkere end den der gule.

<この赤い花はあの黄色い花よりも美しい.>

Han er 5 cm højere end mig. <彼は私よりも5センチ背が高い.>

Jeg har tre søskende, og jeg er den laveste.

<私は3人兄弟がいるが, 私が一番背が低い.>

## 形容詞

- (2) 比較級＝原級＋ -ere, 最上級＝原級＋ -st

原級	意味	比較級 -ere	最上級 -st
hurtig	速い	hurtigere	hurtigst
billig	安い	billigere	billigst
langsom	(スピードが) 遅い	langsommere	langsomst

例： Denne her bog er billigere end den anden. <この本は、もう1つの本よりも安い。>

S-toget er langsommere end de andre tog.

<S-電車は、他の電車よりもスピードが遅い。>

### 2.1.2. 不規則変化

- (1) 比較級・最上級の母音が、原級の母音とは異なる。

原級	意味	比較級	最上級
stor	大きい	større	størst
ung	若い	yngre	yngst
lang	長い	længere	længst
få	少しの	færre	færrest

例： Deres hus er større end vores. <彼らの家は、私たちのよりも大きい。>

Han er 5 år yngre end mig. <彼は私よりも5歳若い。>

- (2) 比較級・最上級の形態が、原級とは大きく異なる。

原級	意味	比較級	最上級
gammel	古い；年老いた	ældre	ældst
god	良い	bedre	bedst
lille	小さい	mindre	mindst
mange	多数の	flere	flest
meget	たくさんの	mere	mest
ond	悪い	værre	værst

例： Min far er ældre end min mor. <私の父は母よりも年上だ。>

Vil du have mere kaffe? <もっとコーヒーを飲みますか?>

## 2.2. mere, mest を用いた比較変化

比較級 = mere + 原級, 最上級 = mest + 原級

外来語, 多音節語, 過去分詞からできた形容詞, 名詞からできた形容詞, 合成語などは, (英語の more, most に相当する) mere, mest を用いて比較変化を表す。

原級	意味	比較級 mere	最上級 mest	成り立ち (由来)
økonomisk	経済的な	mere økonomisk	mest økonomisk	外来語
almindelig	一般的な	mere almindelig	mest almindelig	多音節語
uventet	予期しない	mere uventet	mest uventet	過去分詞
skyet	曇りの	mere skyet	mest skyet	名詞
tilfreds	満足した	mere tilfreds	mest tilfreds	前置詞 til + 名詞
iskold	氷のように 冷たい	mere iskold	mest iskold	is <氷> + kold <冷たい>

例：Det er mere økonomisk at cykle end at have bil.

<自転車で移動することは, 車を所有するよりも経済的だ。>

Jeg er mere tilfreds med resultatet, end han er.

<私は彼よりもその結果に満足している。>

I København er det mest almindeligt at cykle på arbejde, synes jeg.

<コペンハーゲンでは, 自転車で通勤するのが最も一般的だと, 私は思う。>

### 注意 1

Jeg var mere tørstig end sulten. <私はお腹がすいたというよりは, 喉が渴いていた。>

このように, 異なる性質を表す形容詞を比べる際には, tørstig のように語尾による比較変化が可能な形容詞であっても, mere を用いることが必要となる。

### 注意 2

尚, -ig, -lig, -som に終わる形容詞は, 語形変化によって比較級, 最上級を表すと述べたが, 最近では, 語形変化を伴わずに, mere, mest を用いて表すことを好む人もいるようである。

## 3. 形容詞の名詞的用法

形容詞は文中で, 名詞として機能することがある。

### ① 人間などを表す用法

例：Billetterne koster 60 kr. for voksne og 30 kr. for børn.

## 形容詞

〈チケットは大人が 60 クローネで子供が 30 クローネです。〉

Udtalen hos de unge er ret forskellig fra de ældres.

〈若者の発音は、年配者の発音とはかなり異なっている。〉

### ② 抽象的概念などを表す用法

例：Det dejlige ved ham er, at han altid er glad.

〈彼の素敵などころは、いつも機嫌が良いことだ。〉

Kan du skrive det med stort? 〈それを大文字で書いてもらえますか?〉

## 4. 形容詞の副詞的用法

形容詞の未知形・中性・単数形（-t 形のものも、-t 形でないものも）は副詞として用いられる。

例：Du taler godt. 〈あなたは上手に話す。〉

Han gik langsomt. 〈彼はゆっくりと歩いた。〉

Tiden går stille og roligt. 〈時間は静かにゆっくりと過ぎている。〉

De kom for sent. 〈彼らは遅れてきた。〉

ただし、-ig, -lig に終わる形容詞が副詞として用いられる場合には注意が必要である。

(a) Han synger forfærdeligt. 〈彼の歌い方はひどい。〉

(b) Her er frygtelig varmt. 〈ここは恐ろしく暑い。〉

(a) のように、副詞が動詞を修飾し、動詞の示す行為のあり方、すなわち「様態」を表すときは -t 形が用いられる。しかし (b) のように、副詞が形容詞を修飾し、その「程度」を表すときには -t を伴わない形（未知形・共性・単数形）が用いられる。（副詞が、形容詞だけでなく、動詞や副詞の「程度」を表す場合にも同様である。）

「様態」の例：	「程度」の例：
Han opførte sig frygteligt. 〈彼は行儀がひどかった。〉	Han arbejder frygtelig langsomt. 〈彼は仕事が恐ろしく遅い。〉
Han er dødeligt såret. 〈彼は致命傷をうけている。〉	Han er dødelig forelsket i hende. 〈彼は彼女に死ぬほど恋している。〉
De svarede rigtigt. 〈彼らは正しく答えた。〉	Det smager rigtig godt. 〈これは本当に美味しい。〉

## 代名詞

代名詞とは、名詞を代用する機能をもつ語のことである。

### 1. 人称代名詞

人称代名詞		単数			複数		
		主格	目的格	所有格	主格	目的格	所有格
1 人称		jeg	mig		vi	os	vores
2 人称	親称	du	dig		I	jer	jeres
	敬称	De	Dem	Deres	De	Dem	Deres
3 人称	男性	han	ham	hans	de	dem	deres
	女性	hun	hende	hendes			
	共性	den	den	dens			
	中性	det	det	dets			

#### 注意！

- ① 2 人称複数主格の I は文中でも大文字で書く。
- ② 敬称の 2 人称 De, Dem はよほど年配の方に対してしか用いることはなく、商店の一部の従業員によってお客に対して用いられる、あるいは会社から顧客に宛てた文書の中で用いられる程度である。なお、敬称の 2 人称 De, Dem は文中でも大文字で書き始める。

例：Hvad hedder du? <あなたの名前は何ですか？>

Jeg hedder Erik Madsen. <私はイーレク・マスンといます。>

Martin taler dansk med mig. <マーティンは私とデンマーク語を話します。>

Taler Martin også dansk med dig?

<マーティンはあなたとデンマーク語も話しますか？>

/ <マーティンはあなたともデンマーク語を話しますか？>

#### 1.1. 人称代名詞 det の用法

人称代名詞の det の一義的な用法は、前述の中性名詞を指し示すことにある。

Jeg har et fjernsyn, men det er gammelt. <私は TV を持っているが、それは古い。>

しかしながら、det はある特定の語だけを受けただけでなく、前述の文の一部あるいは全体を受けるともある。

## 代名詞

例： Har I ikke sådan en i Japan? <日本にはそのようなものはありますか?>

— Nej, det har vi ikke. <はい, ありません。>

[返答文の det は, 疑問文中の sådan en i Japan 全体を受ける]

Har du været i Danmark? <デンマークに行ったことがありますか?>

— Ja, det har jeg. <はい, あります。>

[返答文の det は, 疑問文中の været i Danmark 全体を受ける]

Kommer han for sent? <彼は遅れてきますか?>

— Det ved jeg ikke. <分かりません。>

[返答文の det は, 疑問文全体を受ける]

Det bliver snevejr i morgen. <明日は雪になります。>

— Er det rigtigt? <本当ですか?>

[返答文の det は, 前文全体を受ける]

また det は, 特別な意味を持たずに, 単に主語の位置あるいは目的語の位置を埋めるために, 形式語として用いられることがある。

① [後続する従位節/不定詞句が主語/目的語となることを示す]

例： Det er sundt, at du spiller badminton to gange om ugen.

<あなたが週に2度バドミントンをしているのは, 健康に良い。>

Det er sundt at spise fisk. <魚を食べるのは健康に良い。>

Det ville være fint, hvis du kunne komme. <もしあなたが来られるのなら良いのに。>

Jeg finder det åndsvagt at reparere vores gamle fjernsyn.

<私は私たちの古いテレビを修理するのは馬鹿げていると思う。>

② [非人称構文]

例： Det regner. <雨が降っている。>

Det er overskyet. <曇っている。>

Det gør ondt i armen. <腕が痛い。>

Det banker på døren. <ドアを叩く音がしている。>

Hvordan går det med dig? <あなたの調子はいかがですか?>

— Det går udmærket, tak. <とても良いです, どうも>

Hvordan har din far det? <あなたのお父さんの具合はいかがですか?>

— Han har det ikke så godt. <彼はあまり調子がよくありません。>

③ 強調構文の主語

det は強調構文の主語としても用いられる。

例： Det er mig, der køber ind i dag. <今日買い出しに行くのは、私です。>  
 Det var Martin, jeg spillede badminton med i går.  
 <昨日私がバドミントンを一緒にしていたのは、マーティンです。>

## 2. 再帰代名詞

目的語としてのみ用いられるので、目的格しか存在しない。目的語が文（/節）の主語と同一の場合に用いられる。

再帰代名詞		単数	複数形
		目的格	目的格
1 人称		mig	os
2 人称	親称	dig	jer
	敬称	Dem	Dem
3 人称	男性	sig	sig
	女性		
	共性		
	中性		

例： Jeg keder mig. <私は退屈している。>  
 Du skal tro på dig selv. <自分のことを信じなさい。>  
 Han slog sig. <彼は怪我をした。>  
 Vi glæder os til at se dig. <私たちはあなたに会えるのを楽しみにしている。>  
 Kunne I hvile jer lidt? <あなたたちは少しは休むことができましたか？>  
 De hyggede sig ved festen. <彼らはパーティで楽しんだ。>  
 Lena spørger, om Peter har moret sig ved festen.  
 <リーナは、ピーダがパーティで楽しんだかどうか、尋ねている。>

この最後の例文では sig は文（主節）の主語 Lena ではなく、従位節の主語 Peter のことである点に注意する必要がある。

## 3. 相互代名詞

現代デンマーク語では、hinanden<お互い> が唯一のものである。目的格 (hinanden) と所有格 (hinandens) がある。

例： Bo og Lise kender hinanden. <ボーとリーセは知り合いである。>  
 De kender også hinandens børn. <彼らはお互いの子供たちも知っている。>

## 4. 所有代名詞

名詞 所有代名詞	単数		複数
	共性	中性	
1 人称・単数	min	mit	mine
2 人称・単数	din	dit	dine
3 人称・単数再帰	sin	sit	sine

例： Jeg har min paraply med. <私は自分の傘を持ってきている。>  
 Husk at tage dit pas med! <あなたのパスポートを持って行くのを忘れずに！>  
 Mine kollegaer er virkelig søde. <私の同僚たちはとても優しい。>

## 注意！

sin, sit, sine は、同じ文（/節）中の主語を指して、〈自分の〉という意味になる。したがって、主語の位置には現れることはない。また、sin, sit, sine が使われるのは、主語が 3 人称・単数の場合のみである。

例： Han har altid sin madpakke med. <彼はいつも自分のお弁当を持ってきている。>  
 Hun kan godt lide sit arbejde. <彼女は自分の仕事が好きだ。>  
 Martin inviterer sine venner til middag.  
 <マーティンは自分の友人たちをディナーに招待する。>  
 Lena siger, at Peter har mistet sin pung.  
 <リーナはピーダが自分の [ピーダ自身の] 財布をなくしたと言っている。>  
 しかし文の主語 (Lena) の物でも、節が異なると sin, sit, sine は用いない。  
 Lena spørger, om Peter har set hendes nøgler.  
 <リーナはピーダが彼女の [リーナの] キーを見たかどうか尋ねている。>

## 注意！

所有代名詞が名詞の前に置かれず、単独で用いられる場合には、所有代名詞に強勢が置かれる。

例： Den der paraply er **min**. <あの傘は私のだ。>  
 Skal vi bruge mit kamera eller **dit**?  
 <私のカメラを使いましょうか、それともあなたのを使いましょうか？>  
 Jeg har ikke min paraply med, men hun har **sin** med.  
 <私は私の傘を持ってきていないが、彼女は自分のを持ってきている。>



上の所有代名詞の表には〈彼の〉、〈彼女の〉、〈それの〉、〈私たちの〉、〈あなたたちの〉、〈彼らの〉、〈[敬称]あなた(たち)の〉を表す語がないが、これらは人称代名詞の所有格で代用される。

例：hans bil, hendes bil, vores bil, jeres bil, deres bil, Deres bil

**注意！**

人称代名詞の所有格は min/mit/mine などの所有代名詞とは異なり、関連する名詞の性・数に呼応して変化することはない。

### 5. 指示代名詞

デンマーク語では、原則として下の表のように、「これ」を意味する場合と「あれ・それ」を意味する場合とで異なる指示代名詞を使用する。

指示代名詞	単数		複数
	共性	中性	
あれ それ	den	det	de
これ	denne	dette	disse

指示代名詞はそれが指し示す名詞の性・数によって異なった形態をしており、常に強勢が置かれる。

指示代名詞＋名詞	単数		複数
	共性	中性	
あれ それ	den bil	det hus	de biler
これ	denne bil	dette hus	disse biler

これらの指示代名詞は、特に話し言葉では、話し手から離れた場所を表す副詞 **der** や話し手に近い場所を表す副詞 **her** を伴って用いられる。

指示代名詞＋副詞＋名詞	単数		複数
	共性	中性	
あれ それ	den der bil	det der hus	de der biler
これ	den her bil denne her bil	det her hus dette her hus	de her biler disse her biler

## 6. 疑問代名詞

疑問代名詞とは、話し手にとって未知である要素について尋ねるために使われる代名詞のことで、疑問文を導く。

デンマーク語では、「何」を表す場合には *hvad* を、「誰」を表す場合には *hvem* を、そして「誰の」を表す場合に *hvis* が用いられる。

	主格・目的格	所有格
だれ	<i>hvem</i>	<i>hvis</i>
なに	<i>hvad</i>	

例： *Hvem er det?* <あれは誰ですか？>

*Hvis taske er det?* <これは誰のかばんですか？>

*Hvad skal du spise i aften?* <今晚は何を食べますか？>

さらに「どれ、どの」を表す疑問代名詞 *hvilken*, *hvilket*, *hvilke* が存在する。この疑問代名詞は、性・数によって変化する。

	数	単数	複数
性			
	共性	<i>hvilken</i>	<i>hvilke</i>
	中性	<i>hvilket</i>	

例： *Hvilken farve kan du bedst lide?* <どの色があなたは一番好きですか？>

*Hvilket fag kan du bedst lide?* <どの科目があなたは一番好きですか？>

*Hvilke lande i Europa har du været i?*

<ヨーロッパではどの国に行ったことがありますか？>

しかしながら、これら *hvilken*, *hvilket*, *hvilke* という疑問代名詞は現代では書き言葉的であり、話し言葉ではそれぞれ *hvad for en*, *hvad for et*, *hvad for nogle* が代わりに用いられる。

例： *Hvad for en farve kan du bedst lide?* <どの色があなたは一番好きですか？>

*Hvad for et fag kan du bedst lide?* <どの科目があなたは一番好きですか？>

*Hvad for nogle lande i Europa har du været i?*

<ヨーロッパではどの国に行ったことがありますか？>

また、対象となる名詞が単数形の場合は、*hvad* を直前に付けて「何日」、「何曜日」、

「何色」のように表すこともできる。

例： Hvad dato er det i dag? <今日は何日ですか？>

Hvad dag er det i dag? <今日は何曜日ですか？>

Hvad farve kan du bedst lide? <あなたは何色が一番好きですか？>

## 6.1. 間接疑問文

以上の疑問代名詞は、当然のことながら、間接疑問文を導くこともできる。その際に1つ注意を要することがある。それは、デンマーク語では、間接疑問文において、疑問代名詞（を含む語句）が主語の場合には、主語マーカーの **der** を疑問代名詞（を含む語句）の直後に必ず挿入しなければならないことである。

例： Jeg har spurgt, hvem der kommer til festen. <私はパーティに誰が来るのか尋ねた。>

Hun har hørt, hvad der var sket. <彼女は何が起こったかを聞いた。>

## 7. 関係代名詞

関係代名詞とは、先行する特定の名詞（句）や人称代名詞などと、それに後続する文に関係をもたせる、あるいはその両者を関連づける機能を持つ代名詞のことである。

先行詞	主格	目的格	所有格
人・もの	der		hvis
	som		
人		hvem	
先行する文／ゼロ	hvad der	hvad	

例： Jeg kender den mand, der går nede på gaden.

<私は下の通りを歩いている男の人を知っている。>

Den bog, (som) hun læste i nat, var meget kedelig.

<彼女が昨夜読んだ本は、とてもつまらなかった。>

Jeg har ikke hørt om den film, (som) du snakker om.

<私はあなたが話をしている映画について聞いたことがない。>

Min mormor, der bor alene, har et sommerhus på Samsø.

<私の祖母は、1人暮らしをしているのだが、サムスーに別荘を持っている。>

Jeg har en kollega, hvis kone er politiker.

<私には、その妻が政治家である同僚がいる。>

## 代名詞

Han er forelsket i Nina, hvem jeg arbejder sammen med.

/ Han er forelsket i Nina, med hvem jeg arbejder sammen.

〈彼はニナに恋をしていて、そのニナと私は一緒に働いている。〉

Det har regnet hele ugen, hvad der har gjort mig lidt trist.

〈1週間ずっと雨が降り続けた、そのことが私を少し悲しくした。〉

また、疑問代名詞 *hvilken/hvilket/hvilke* も関係代名詞として転用されることがあるが、現代デンマーク語の話し言葉ではあまり用いられない。さらに単独で用いられるものは、*hvilket* のみであり、先行する文全体を先行詞とする。

先行詞	主格	目的格
先行する文	<i>hvilket</i>	<i>hvilket</i>

例： Det har regnet hele ugen, *hvilket* har gjort mig lidt trist.

〈1週間ずっと雨が降り続けた、そのことが私を少し悲しくした。〉

*hvilken, hvilket, hvilke* は前置詞の目的語として用いられる（必ず直前に前置詞を伴って用いられる）。その際には、先行詞の性・数に合わせた代名詞を使用する。

性	数	単数	複数
共性		<i>hvilken</i>	<i>hvilke</i>
中性		<i>hvilket</i>	

例： Liva og Jakob køber en ny bil, i *hvilken* de har planer om at køre rundt i Japan.

〈リーヴァとヤコブは新しい自動車を購入して、それに乗って日本中を巡る予定にしている。〉

Jeg har lånt Peters kamera, med *hvilket* jeg har taget mange billeder.

〈私はピーダのカメラを借りて、それでたくさんの写真を撮った。〉

Nina har lavet et par lagkager, på *hvilke* hun har sat nogle jordbær.

〈ニナはレイヤーケーキを2,3作って、それらの上にくいつかのイチゴをのせた。〉

*hvem* と *hvad* には英語の *who(m)ever, whatever* に相当する不定関係代名詞の用法もある。この場合、*hvem* は関係節中の主語にもなり得る。

例： Huset er åbent for, *hvem* der er interesseret.

〈その建物は関心のある人には誰にでも開放されています。〉

Jeg inviterer, hvem jeg vil. <私は招待したい人は誰でも招待します。>

Vi må gøre, hvad der er nødvendigt.

<私たちは必要なことは何でもしなければならない。>

Vi behøver ikke at gøre alt, hvad han forlanger.

<私たちは彼が要求することを何でもしなければならないというわけではない。>

Man kan ikke have alt, hvad man vil.

<ひとは、欲しいものを全て手に入れられる訳ではない。>

## 8. 不定代名詞

### 8.1. man <(不定の) ひと>

この不定代名詞は、日本語に訳さないことが多い。

主格	目的格	所有格
man	en	ens

例： Man må ikke snyde de andre. <他人を欺いてはいけない。>

Hvis man hjælper Peter, kan han også hjælpe én.

<もしピーダを手伝えれば、彼も自分を手伝ってくれるかもしれない。>

Man bliver glad, hvis nogen roser ens børn.

<誰かが自分の子どものことを褒めたら嬉しくなる。>

### 8.2. en <あるもの>

名詞の代わりに用いられる代名詞で、単数形でしか用いられない。共性形：en，中性形：et である。

例： Har I ikke sådan en i Japan? <日本にはそのようなものはないのですか?>

Hvad for et tæppe vil du købe? <どのようなカーペットを買いたいですか?>

- Jeg vil gerne have et rødt et. <私は赤いのが欲しい。>

### 8.3. nogen

この不定代名詞には、2つの異なる用法が存在する。複数形では、用法によって使われる形態が異なるので、注意すること。

- ① 英語の any に相当し、「あるか、ないか」、「ゼロかゼロでないか」を問題にする場合に用いられる。原則として、否定文、疑問文、条件文で用いられ、必ず強勢が置かれる。

## 代名詞

性 \ 数	単数	複数
	共性	nogen
中性	noget	

例： Jeg har ikke nogen tid. <私は時間がない。>

Barnet har ikke noget tøj på. <その子供は服を着ていない。>

Har de nogen reoler? <彼らは本棚を持っていますか？>

Der er ikke nogen tæpper på gulvet. <床にはカーペットが一つもない。>

- ② 英語の **some** に相当し, 対象物が存在することが分かっているうえで用いられる。この場合, 名詞の前に付加的に置かれる場合には強勢は置かれない。

性 \ 数	単数	複数
	共性	nogen
中性	noget	

例： Der gik nogen tid, før hun svarede. <彼女が答えるまでにくらかの時間が過ぎた。>

Har du nogle ekstra stole? <予備の椅子がいくつかありますか？>

Der er nogle appelsiner på bordet. <テーブルの上にはオレンジが数個あります。>

- ③ 名詞的用法

単独で用いられる場合, **nogen** は「誰か (複数の人も可)」、**noget** は「何か」、**nogle** は「何人かの人たち」を意味する。この場合必ず強勢が置かれる。

例： Jeg kan høre nogen græde. <誰かが泣いているのが聞こえます。>

Her er noget, du kan spise. <ここにあなたが食べることができるものがあります。>

Der står nogle og råber ude på gaden. <何人かの人たちが外の通りで叫んでいる。>

### 8.4. ingen

名詞の前に付加的に用いられる場合と, 単独で用いられる場合とがある。

性 \ 数	単数	複数
	共性	ingen
中性	intet	

① 名詞とともに用いて：〈ひとつも～ない〉

例： Han har ingen bil. 〈彼は一台も車を持っていない。〉

Jeg har intet sted at bo. 〈私は住むところが一つもない。〉

Der er ingen problemer. 〈ひとつも問題はない。〉

② 単独で用いて：ingen 〈誰も～ない〉, intet 〈何も～ない〉

例： Ingen kan forstå det. 〈誰もそれを理解できない。〉

Intet kan forstyrre dem. 〈何も彼らを邪魔することはできない。〉

**注意！**

実際の言語使用では、ingen は ikke nogen と同義であり、また intet は ikke noget と同義として使用される。特に話し言葉では、ikke nogen そして ikke noget が好まれる。

### 8.5. anden

名詞の前に付加的に用いられる場合と、単独で用いられる場合とがある。

	数	単数	複数
性			
共性		anden	andre
中性		andet	

① 名詞とともに用いて：〈もうひとつの、別の〉

例： Jeg besøger dig så en anden dag. 〈それではまた別の日にあなたを訪問します。〉

Kan du vise mig det andet værelse? 〈もう 1 つの部屋を見せてもらえますか?〉

Kan han andre sprog end engelsk? 〈彼は英語以外に別の言葉ができますか?〉

② andet：単独で用いて：〈別のもの・こと、ほかのもの・こと〉

例： Jeg tror nok, at du har travlt med alt andet.

〈私は、あなたがありとあらゆるほかのことで忙しいのだらうと思います。〉

③ andre：単独で用いて：〈ほかの人たち〉

例： Nogle roser ham, andre kritiserer ham.

〈何人かは彼を褒め、他の人たちは彼を批判する。〉

### 8.6. hver

単数形でしか用いられない。共性形：hver, 中性形：hvert である。用法によって意味が異なる。

## 代名詞

- ① 単数名詞の前に置いて：〈どの～もみな，すべての，あらゆる〉  
 例： Hver gæst har taget en gave med. 〈どの客もみな，プレゼントを持ってきた。〉  
 Hvert glas kostede mere end 500 kr. i denne butik.  
 〈この店では，あらゆるグラスが 500 クローネ以上する。〉
- ② 単数名詞の前に置いて：〈毎，～ごと〉  
 例： hvert år 〈毎年〉， hver måned 〈毎月〉， hver uge 〈毎週〉， hver dag 〈毎日〉 etc.
- ③ 直後に序数+名詞単数形を伴って：〈～おきに，～ごとに〉  
 例： hver anden dag 〈1 日おきに，2 日ごとに〉，  
 hver anden uge 〈1 週間おきに，2 週間ごとに〉，  
 hver anden måned 〈1 カ月おきに，2 カ月ごとに〉，  
 hvert andet år 〈1 年おきに，2 年ごとに〉，  
 hver tredje dag 〈2 日おきに，3 日ごとに〉，  
 hvert fjerde år 〈3 年おきに，4 年ごとに〉
- ④ hver：単独で用いて：〈個々，ひとりひとり〉  
 例： Entreen koster 60 kr. til hver. 〈入場料はひとり 60 クローネです。〉  
 Der er en kage til hver. 〈ひとりひとりにケーキが 1 つあります。〉

### 8.7. enhver 〈誰でも〉

単数形でしか用いられない。共性形：enhver，中性形：ethvert である。

- 例： Enhver, der er interesseret i det, er velkommen til mødet.  
 〈それに興味がある方は誰でもぜひ集会にいらしてください。〉  
 Ethvert menneske kan begå fejl. 〈人は誰でも間違いを犯す。〉  
 Entreen koster 60 kr. til enhver. 〈入場料は誰でも（一律）60 クローネです。〉

### 8.8. al 〈全部の，すべての，あらゆる，可能な限りの〉

	数	単数	複数
性			
共性		al	alle
中性		alt	

- 例： De drak al vinen. 〈彼らはすべてのワインを飲んだ。〉  
 Har du brugt alt salt? 〈塩を全部使ったのですか？〉  
 Han har løst alle opgaverne. 〈彼はすべての問題を解いた。〉

- ① alt：単独で用いて：〈すべてのもの・こと〉  
 例： Kan du ikke fortælle mig alt? 〈私にすべてのことを話して给我ませんか？〉



② alle：単独で用いて：〈全ての人びと，みんな，全員〉

例：Alle kender ham. 〈全員が彼を知っている。〉

Har I alle sammen det godt? 〈皆さん，お元気ですか?〉

### 8.9. begge 〈両方，双方，両者〉

例：Du skal bære det med begge hænder. 〈それを両手で運びなさい。〉

Begge drenge(ne) er forelskede i den samme pige.

〈少年は両者ともに同じ少女に恋をしている。〉

Vi er begge to glade for resultatet. 〈私たちは双方ともその結果を喜んでいる。〉

Han har inviteret jer begge to. 〈彼はあなたたち2人ともを招待した。〉

### 8.10. egen 〈自分の，自身の〉

所有代名詞あるいは人称代名詞の所有格とともに用いられる。

性 \ 数	単数	複数
共性	egen	egne
中性	eget	

例：Han har aldrig sin egen mening. 〈彼には決して自分自身の考えがない。〉

Er det der hus dit eget? 〈あの家はあなた自身のですか?〉

Hun roser altid sine egne børn. 〈彼女はいつも自分自身の子どもたちを褒める。〉

### 8.11. sådan 〈そのような，このような〉

性 \ 数	単数	複数
共性	sådan sådan en	sådanne
中性	sådant sådan et	sådan nogle

例：Har I ikke sådan en i Japan? 〈日本にはそのようなものはないのですか?〉

Sådan en fin dag glemmer jeg aldrig.

〈このような素敵な1日を私は決して忘れません。〉

Sådan et problem kan jeg ikke klare selv.

〈このような問題を私は1人で対処することはできません。〉

## 代名詞

Sådan nogle opgaver får man tit i skolen.

〈そのような課題は学校ではよく出される。〉

ただし、補語となる場合は語形変化をしない。

例： Sådan er det bare. 〈そういうものです。（仕方がないです。）〉

Sådan er livet. 〈人生とはそういうものです。〉

### 注意！

話し言葉では， sådan en, sådan et, sådan nogle が用いられる。

## 8.12. sikken

sikke は話し言葉で感嘆表現に用いられる不定代名詞で，基本的には下表のような変化をする。

数 性	単数	複数
共性	sikken	sikke
中性	sikket	

しかし実際には様々な表現がある：

〔単数・共性〕 sikken, sikken en, sikke en

〔単数・中性〕 sikket, sikkent, sikken et, sikke et

〔単数・共性〕 sikke, sikke nogle

例： Sikken idiot han er!/Sikken en idiot han er!/Sikke en idiot han er!

〈彼はなんて馬鹿なんだろう！〉

Sikket vejr det er i dag!/Sikkent vejr det er i dag!/Sikken et vejr det er i dag!/Sikke et vejr det er i dag! 〈今日はなんて天気だろう！〉

Sikke dejlige desserter I laver!/Sikke nogle dejlige desserter I laver!

〈なんて素敵なデザートをあなたたちは作るんでしょう！〉

## 8.13. selve 〈そのもの〉

名詞の前に付加的に用いられる代名詞で，直後の名詞には後置定冠詞を伴う。

例： Selve bogen er interessant, men forfatteren er mærkelig.

〈本そのものは面白いのだが，その作者は変わり者だ。〉

## 数詞

デンマーク語の数詞には、基数と序数がある。

### 1. デンマーク語の数詞

基数	序数
1 en ['e:n], et ['ed]	1. første ['fɔ:stə]
2 to ['to:]	2. anden ['anən], andet ['anəd]
3 tre ['træ:]	3. tredje ['træðjə]
4 fire ['fi:ɔ]	4. fjerde ['fjæ:ɔ]
5 fem ['fæm]	5. femte ['fæmdə]
6 seks ['sæks]	6. sjette ['ʃæ:də]
7 syv ['syw]	7. syvende ['syw'ənə]
8 otte ['å:də]	8. ottende ['ɔdənə]
9 ni ['ni:]	9. niende ['ni:ənə]
10 ti ['ti:]	10. tiende ['ti:ənə]
11 elleve ['ælvə]	11. ellevte ['ælvdə]
12 tolv ['tɔl]	12. tolvte ['tɔldə]
13 tretten ['trädən]	13. trettende ['trädənə]
14 fjorten ['fjɔ:rdən]	14. fjortende ['fjɔ:rdənə]
15 femten ['fæmdən]	15. femtende ['fæmdənə]
16 seksten ['sɔ:sdən]	16. sekstende ['sɔ:sdənə]
17 sytten ['sødən]	17. syttende ['sødənə]
18 atten ['adən]	18. attende ['adənə]
19 nitten ['nedən]	19. nittende ['nedənə]
20 tyve ['ty:və] <sup>(1)</sup>	20. tyvende ['ty:vənə] <sup>(1)</sup>
21 enogtyve ['e:nɔ'ty:və] <sup>(1)</sup>	21. enogtyvende ['e:nɔ'ty:vənə] <sup>(1)</sup>
30 tredive ['træðvə]	30. tredivte ['træðvdə]
40 fyrre(tyve) ['fɔ:ɔ('ty:və)] 'fɔ:ɔ('ty:və)]	40. fyrretyvende ['fɔ:ɔ'ty:vənə, 'fɔ:ɔ'ty:vənə]
50 halvtreds(indstyre) [hal'træs(əns'ty:və)]	50. halvtredsindstyre [hal'træsəns'ty:vənə]
60 tres(indstyre) ['træs(əns'ty:və)]	60. tresindstyre ['træsəns'ty:vənə]
70 halvfjerds(indstyre) [hal'fjå:ɔs(əns'ty:və)]	70. halvfjerdsindstyre [hal'fjå:ɔsəns'ty:vənə]

## 数 詞

80	firs(indstyre) [ˈfiːs(ənsˈtyːvə)]	80.	firsindstyvende [ˈfiːsənsˈtyːvənə]
90	halvfems(indstyre) [halˈfæmˈs(ənsˈtyːvə)]	90.	halvfemsindstyvende [halˈfæmˈsənsˈtyːvənə]
100	hundrede [ˈhunɾəðə]	100.	hundrede [ˈhunɾəðə]
1000	tusinde, tusind [ˈtuːsənə]		
1.000.000	million [mil(i)ˈjoːn, miliˈoːn]		
1.000.000.000	milliard [mil(i)ˈjɑːd, miliˈɑːd]		

注(1) : (-)tyve, (-)tyvende は各々 [ˈtyːvə], [ˈtyːvənə] のほかに [ˈtyːwə], [ˈtyːwənə] とも発音される。

## 2. 基数の主な用法

### ① 年号

例 : Jeg er født i 1988. (=nitten hundrede otteogfirs / nitten otteogfirs)  
〈私は 1988 年生まれです。〉

### ② 値段

例 : 13 kr. = tretten kroner 〈13 クローネ〉  
8, 50 kr. = otte en halv 〈8 クローネ 50 ウーア〉  
1, 50 kr. = halvanden 〈1 クローネ 50 ウーア〉

### ③ 時間

例 : Klokken er fem minutter over otte. 〈8 時 5 分過ぎです。〉  
Toget fra Odense ankommer kl. 17:16 (=sytten seksten).  
〈オーゼンセからの列車は 17 時 16 分に到着いたします。〉

## 3. 序数の主な用法

### ① 日付

例 : I dag er den 10. marts.(= den tiende marts) 〈今日は 3 月 10 日です。〉  
I dag er d. 10/3. (= den tiende i tredje) 〈今日は 3 月 10 日です。〉

### ② 分数

例 : 1/3 = en tredjedel 〈3 分の 1〉, 2/3 = to tredjedele 〈3 分の 2〉 etc.

## 動詞

デンマーク語の動詞には、人称や数による活用はなく、時制による活用があるのみである。

### 1. 動詞の変化パターンと基本形

デンマーク語の動詞の活用形には、以下のような基本形がある。

	第1 規則変化動詞	第2 規則変化動詞	不規則変化動詞
不定詞形（見出し語形）	vente〈待つ〉	spise〈食べる〉	komme〈来る〉
現在形	venter	spiser	kommer
過去形	ventede	spiste	kom
過去分詞形	ventet	spist	komet
現在分詞形	ventende	spisende	kommende
命令形	vent!	spis!	kom!

デンマーク語の動詞には、過去形が **-ede** に終わるものがあり、これを第1 規則変化動詞と呼び、また過去形が **-te** に終わるものを第2 規則変化動詞と呼ぶ。そして過去形に語尾が付かないものや、語幹母音が交替するものなどを不規則変化動詞と呼ぶ。

不規則変化動詞は約 120 個あり、それ以外は規則変化動詞である。また、規則変化動詞のうち、8割強が第1 規則変化動詞である。

このようにして動詞がグループ化されているので、動詞を覚える際には、変化形のうち、不定詞形、過去形、過去分詞形の3変化形を記憶するようにする。

#### 1.1. 第1 規則変化動詞

過去形が **-ede** に終わり、過去分詞形が **-et** に終わる。

不定詞形	過去形	過去分詞形	意味
vente	ventede	ventet	待つ
flytte	flyttede	flyttet	引っ越す

このグループに属する動詞

lave〈～する；作る〉, lege〈遊ぶ〉, opleve〈体験する〉, love〈約束する〉, prøve〈試みる〉, snakke〈話す〉, lukke〈閉める〉, koste〈(お金が)かかる〉, vaske〈洗う〉, studere〈学ぶ〉etc.

## 動 詞

### 1.2. 第2規則変化動詞

過去形が *-te* に終わり、過去分詞形が *-t* に終わる。

不定詞形	過去形	過去分詞形	意味
spise	spiste	spist	食べる
glemme	glemte	glemt	忘れる

このグループに属する動詞

rejse <旅行する>, smage <味がする>, læse <読む>, tale <話す>, kende <知っている>, låne <借りる>, høre <聞こえる>, begynde <始まる ; 始める>, tænke <考える>, blæse <風が吹く> etc.

### 1.3. 不規則変化動詞

不規則変化動詞は原則として、不定詞形、過去形、過去分詞形において語幹母音が交替する。変化形をひとつひとつ覚えていくしかないが、日常的によく使われる動詞が多いので、学習の初期段階で覚えてしまうことが得策である。以下では、不規則変化動詞のうち、特に頻繁に用いられるであろう動詞を、語幹の母音字の交替パターン別に紹介する。

(1) a — a — a

不定詞形	過去形	過去分詞形	意味
falde	faldt	faldet	落ちる
have	havde	haft	持っている

(2) a — o — a

不定詞形	過去形	過去分詞形	意味
drage	drog	draget	引く, 導く ; 出かける
fare	for	faret	行く, 疾走する
lade	lod	ladet	～させる
tage	tog	taget	取る

(3) e — a — e

不定詞形	過去形	過去分詞形	意味
bede	bad	bedt	頼む

(4) e — e — e

不定詞形	過去形	過去分詞形	意味
hedde	hed	heddet	〜と称する

(5) e — o — e

不定詞形	過去形	過去分詞形	意味
le	lo	let / leet	笑う

(6) e — å — e

不定詞形	過去形	過去分詞形	意味
se	så	set	見える

(7) i — a — a

不定詞形	過去形	過去分詞形	意味
bringe	bragte	bragt	もたらす
sige	sagde	sagt	言う

(8) i — a — i

不定詞形	過去形	過去分詞形	意味
gide	gad	gidet	〜することを欲する
give	gav	givet	与える
sidde	sad	siddet	座っている
stinke	stank	stinket	悪臭を放つ
tie	tav	tiet	黙る

(9) i — a — u

不定詞形	過去形	過去分詞形	意味
drikke	drak	drukket	飲む
slippe	slap	sluppet	手放す
springe	sprang	sprunget	飛び跳ねる
stikke	stak	stukket	突き刺す

動 詞

tvinge	tvang	tvunget	強制する
binde	bandt	bundet	結ぶ
finde	fandt	fundet	見つける
forsvinde	forsvandt	forsvundet	消失する
vinde	vandt	vundet	勝つ

(10) i — e — e

不定詞形	過去形	過去分詞形	意味
blive	blev	blevet	～になる；留まる
drive	drev	drevet	追い立てる
glide	gled	gledet	滑る
gribe	greb	grebet	つかむ
hive	hev	hevet	引き上げる
knibe	kneb	knebet	はさむ
ride	red	redet	騎乗する
rive	rev	revet	引き裂く
skrive	skrev	skrevet	書く
skrige	skreg	skreget	叫びをあげる
svide	sved	svedet	焦がす

(11) i — e — i

不定詞形	過去形	過去分詞形	意味
bide	bed	bidt	噛む
lide	led	lidt	苦しむ
smide	smed	smidt	投げる

(12) i — i — i

不定詞形	過去形	過去分詞形	意味
vide	vidste	vidst	知っている



(13) i — å — i

不定詞形	過去形	過去分詞形	意味
ligge	lå	ligget	横になっている

(14) o — o — o

不定詞形	過去形	過去分詞形	意味
holde	holdt	holdt	保持する
komme	kom	kommet	来る
sove	sov	sovet	眠る

(15) y — a — u

不定詞形	過去形	過去分詞形	意味
synge	sang	sunget	歌う
synke	sank	sunket	沈む

(16) y — ø — o

不定詞形	過去形	過去分詞形	意味
fryse	frøs	frosset	凍る

(17) y — ø — u

不定詞形	過去形	過去分詞形	意味
bryde	brød	brudt	破る, 割る
byde	bød	budt	命令する ; 申し出る
forbyde	forbød	forbudt	禁止する
fortryde	fortrød	fortrudt	後悔する
indbyde	indbød	indbudt	招待する
skyde	skød	skudt	発射する

動 詞

(18)  $y - \emptyset - y$

不定詞形	過去形	過去分詞形	意味
betyde	betød	betydet	意味する
flyde	flød	flydt	浮く
lyde	lød	lydt	響く
nyde	nød	nydt	味わう, 楽しむ
snyde	snød	snydt	だます
gyse	gøs	gyst	身震いする
nyse	nøs	nyst	くしゃみする

(19)  $y - \emptyset - \emptyset$

不定詞形	過去形	過去分詞形	意味
ryge	røg	røget	煙を出す
stryge	strøg	strøget	なでる
flyve	fløj	fløjet	飛ぶ
lyve	løj	løjet	嘘を言う

(20)  $\text{æ} - a - a$

不定詞形	過去形	過去分詞形	意味
sætte	satte	sat	置く; 座らせる
fortsætte	fortsatte	fortsat	続く
fortælle	fortalte	fortalt	話す
lægge	lagde	lagt	横たえる
række	rakte	rakt	手渡す
strække	strakte	strakt	伸ばす
tælle	talte	talt	数える
vælge	valgte	valgt	選ぶ
gælde	gjaldt	gjaldt / gældt	～の価値がある

(21) æ — a — u

不定詞形	過去形	過去分詞形	意味
hjælpe	hjalp	hjulpet	助ける
træffe	traf	truffet	当たる
trække	trak	trukket	引っ張る

(22) æ — a — æ

不定詞形	過去形	過去分詞形	意味
hænge	hang	hængt	ぶら下がる
være	var	været	～である

(23) æ — a — å

不定詞形	過去形	過去分詞形	意味
bære	bar	båret	運ぶ
skære	skar	skåret	切断する
stjæle	stjal	stjålet	盗む

(24) æ — o — o

不定詞形	過去形	過去分詞形	意味
sværge	svor	svoret	誓う
sælge	solgte	solgt	売る

(25) æ — æ — æ

不定詞形	過去形	過去分詞形	意味
græde	græd	grædt	泣く

(26) æ — å — æ

不定詞形	過去形	過去分詞形	意味
æde	åd	ædt	食らう

動 詞

(27) æ — å — å

不定詞形	過去形	過去分詞形	意味
træde	trådte	trådt	踏む

(28) ø — o — o

不定詞形	過去形	過去分詞形	意味
gøre	gjorde	gjort	する

(29) ø — u — u

不定詞形	過去形	過去分詞形	意味
følge	fulgte	fulgt	従う
smøre	smurte	smurt	塗る
spørge	spurgte	spurgt	質問する

(30) ø — ø — ø

不定詞形	過去形	過去分詞形	意味
dø	døde	død	死ぬ
løbe	løb	løbet	走る

(31) å — i — å

不定詞形	過去形	過去分詞形	意味
få	fik	fået	得る
gå	gik	gået	歩く ; 行く

(32) å — o — å

不定詞形	過去形	過去分詞形	意味
forstå	forstod	forstået	理解する
slå	slog	slået	打つ
stå	stod	stået	立っている

## 2. 現在形

現在形は原則として、語幹（基本的には命令形に同じ）に **-er** を付加する。

例：laver, køber, løber, venter, finder, siger etc.

しかし、中には不規則な現在形をもつものがある。

### ① 不定詞形 + -r

不定詞形	現在形	意味
bo	bor	住んでいる
dø	dør	死ぬ
få	får	得る
gå	går	歩く；行く
le	ler	笑う

不定詞形	現在形	意味
se	ser	見える
slå	slår	打つ
stå	står	立っている
tro	tror	思う

### ② 不規則な現在形を持つその他の動詞

不定詞形	現在形	意味
gøre	gør	する
have	har	持っている
vide	ved	知っている
være	er	～である

## 2.1. 現在形の用法

### ① 現在起きている事柄を表す

例：Jeg er sulten. <私はお腹が空いている.>

Solen skinner. <太陽が照っている.>

De sidder på en café. <彼らはカフェに座っている.>

### ② 習慣的な事柄を表す

例：Han hedder Martin. <彼はマーティンという.>

Martin arbejder i Køge. <マーティンはクーイで働いている.>

Martin tager S-toget hver dag. <マーティンは毎日 S-電車に乗る.>

### ③ 未来に起きる事柄を表す

例：Jeg ringer til dig i morgen. <私は明日あなたに電話をします.>

Han kommer snart. <彼はもうすぐ来ます.>

Hun bliver 18 til april. <彼女は4月に18歳になります.>

④ 普遍的な事柄を述べる

例： Solen går ned i vest. <太陽は西に沈む。>

Jorden bevæger sig omkring solen. <地球は太陽の周りを動く。>

⑤ 歴史的現在：過去の事柄を現在起こっているかのように、生き生きと述べる

例： I morges sad jeg og drak morgenkaffe i køkkenet, så hørte jeg en mærkelig lyd fra vaskerummet; jeg lukker døren op og kigger rundt i rummet for at se, om der er nogen, så ligger der tre små killinger på gulvet! <今朝私はキッチンで朝のコーヒーを飲んでいました。すると洗濯場から奇妙な音が聞こえてきました。私は誰かいるかどうか見るためにドアを開け、洗濯場の中を見回しました。すると3匹の小さな子猫が床の上で横になっていました。>

### 3. 過去形の用法

① 過去に起きた事柄を表す

デンマーク語では、この用法を持つ過去形は「その文あるいはその前の文脈の中に、過去の一時点を表す副詞的語句が示されているか、あるいは状況から過去の一時点を特定できる場合」のみに使用される。

例： I morges skinnede solen dejligt. <今朝は陽が気持ちよく照っていました。>

For tre dage siden afleverede jeg min opgave. <3日前に私は自分の課題を提出した。>

Vi legede tit sammen, da vi var børn.

<私たちが子どもだった頃、私たちはよく一緒に遊びました。>

② 非現実的な事柄を表す

デンマーク語の過去形には、英語の仮定法過去に相当するような、現在の事実に対する事柄を表す用法がある。

(a) 単に話者が考えている・想像している事柄を表す

例： Jeg kunne ikke holde det ud, hvis jeg var dig.

<もし私があなただったら、それに耐えることはできないでしょう。>

(b) 話者の願望を表す

例： Bare jeg havde bil! <車があったらなあ。>

Gid jeg havde råd til at rejse til Japan! <日本に旅行する余裕があったらなあ。>

Jeg kunne godt tænke mig at sejle til Norge. <私はノルウェーに船で行ってみたい。>

この非現実的な事柄を表す「過去形」は、以下のような場合にも使われる。

(a) 丁寧

例： Det ville være fint, hvis vi kunne rykke vores møde til i morgen.

〈私たちのミーティングを明日に延期することができるの良いのですが。〉

Kunne du ikke hjælpe mig med at finde et sted at bo?

〈住むところを見つけるのを手伝ってもらえないでしょうか?〉

(b) 話者の感情を表す： Det var ～.

例： Det var godt! 〈それは良かった!〉

Det var dog ærgeligt! 〈それは残念だなあ!〉

Det var da heldigt! 〈それはラッキーなことじゃないか!〉

## 4. 完了形

デンマーク語では、[完了の助動詞： har / er (現在形) + 動詞の過去分詞] で現在完了を、そして [完了の助動詞： havde / var (過去形) + 動詞の過去分詞] で過去完了を表す。

例： Har du nogensinde mødt ham? 〈これまでに彼に会ったことがありますか?〉

Toget er lige gået. 〈電車はちょうど行ってしまいました。〉

Jeg vidste ikke, at du havde været syg. 〈あなたが病気だったとは知らなかった。〉

Hun var ked af det, fordi hendes kæreste var gået fra hende.

〈彼女の恋人が彼女の元を去っていったので、彼女は悲しんでいた。〉

### 4.1. 完了の助動詞 have と være の使い分け

デンマーク語の完了の助動詞には、have と være の2種類がある。この2つの助動詞をどのように使い分けるかということを理解するためには、まずデンマーク語の動詞が、表される意味内容によって3種類のカテゴリーに分けられることを知っておく必要がある。

デンマーク語の動詞は、(1)「状態動詞」(状態が継続することを表す動詞)と(2)「非状態動詞」(上記以外を表す動詞)の2種類のカテゴリーに分けられる。

次に(2)「非状態動詞」は、(2a)「動作動詞」(時間的幅を持って行なわれる動作を表す動詞)と(2b)「変化動詞(推移動詞)」(その行為が瞬間的に完了してしまうことを表す動詞)というさらに2種類のカテゴリーに分けられる。

これら3種類のカテゴリー全てに、それぞれ自動詞(目的語を必要としない動詞)と他動詞(目的語を必要とする動詞)が存在する。

## 動 詞

### (1) 状態動詞

自動詞：være <～である；存在する>，bo <住んでいる>，ligge <横たわっている>，  
mangle <欠けている>

他動詞：have <持っている>，eje <所有している>，forstå <分かっている>，vide  
<知っている>，ligne <似ている>

### (2) 非状態動詞

#### (2a) 動作動詞

自動詞：arbejde <仕事をする>，spekulere <考える>，protestere <抗議する>，  
spadsere <散歩する>

他動詞：diskutere <議論する>，snitte <刻む>，slå <叩く>，pleje <看護する>，  
vejlede <指導する>

#### (2b) 変化動詞（推移動詞）

自動詞：blive <～になる>，komme <来る>，dø <死ぬ>，forsvinde <消失する>，  
falde <落ちる>

他動詞：drikke <飲む>，dræbe <殺す>，knuse <砕く>，vælde <倒す>

## 4.1.1. 完了の助動詞に have が使われる場合

### ① 他動詞

対象となる動詞が、上記の3つのカテゴリーのどれに属していようとも、その動詞が他動詞である場合には、完了の助動詞は have となる。

例：Jeg har haft mange gode venner i mit liv.

<私は自分の人生で多くの良い友人に恵まれてきた。>

Henrik har vejledet mange studerende i årenes løb.

<ヘンレクは長年にわたって多くの学生を指導してきた。>

Ole har allerede spist kagen. <オーレはもう既にケーキを食べた。>

### ② 再帰動詞

また、more sig <楽しむ> などの再帰動詞は、その意味を日本語で考えると一見自動詞かと思ってしまうが、デンマーク語としてはあくまでも主語の人が自分自身を楽しませる、という他動詞の構造であるので、再帰動詞の完了の助動詞は have となる。

例：Vi har hygget os rigtig meget. <私たちはとてもよく楽しんだ。>

Han har ikke forandret sig, siden han var lille.

<彼は、幼いころから、変わっていない。>

Pia har glædet sig til at rejse til Japan.

<ピーアは日本に旅行に行くのを楽しみにしてきた。>



③ 自動詞：状態動詞

対象となる動詞が、自動詞で、なおかつ状態動詞である場合にも、完了の助動詞は have となる。

例： Det har været varmt i dag. <今日は暑かった.>

Jeg har boet i Danmark i to år. <私はデンマークに2年間住んでいます.>

④ 自動詞：動作動詞

さらに、対象となる動詞が、自動詞で、なおかつ動作動詞である場合にも、完了の助動詞は have となる。

例： Jeg har arbejdet i otte timer. <私は8時間働いています.>

Jeg har spadseret i parken. <私は公園を散歩しました.>

#### 4.1.2. 完了の助動詞に være が使われる場合

完了の助動詞として være が使われるのは、対象となる動詞が、自動詞で、なおかつ変化動詞（推移動詞）の場合のみである。

例： Han er blevet stor. <彼は大きくなった.>

Gæsterne er kommet. <お客さんたちは到着した.>

Hans far er død. <彼の父親は亡くなった.>

Pigen er forsvundet. <その女の子は消えた(=いなくなった).>

#### 4.1.3. 移動を表す動詞

gå や løbe などの移動を表す動詞は、自動詞であるが、動作を表す「動作動詞」として用いられる場合と、主語に起こった変化を表す「変化動詞」として用いられる場合がある。

① 動作動詞の場合

例： Jeg har gået i to timer. <私は2時間歩いている／歩いた.>

Jeg har løbet i en time. <私は1時間走っている／走った.>

この場合は、gå も løbe もそれぞれ「歩く」そして「走る」という動作を表している（「動作動詞」である）ので、完了の助動詞は have を用いる。

② 変化動詞の場合

例： Han er gået. <彼は行った(もういない).>

Hunden er løbet væk. <犬は逃げていった(もういない).>

この場合は、gå と løbe は「歩く」や「走る」などの動作を表しているのではなく、主語である対象がある地点からある地点へと移動したことを表しているため、gå 所し

て løbe はここでは「変化動詞 (推移動詞)」となる。したがって、完了の助動詞も have ではなくて, være となる。

## 4.2. 完了形の用法

英語と同様に、「継続」、「経験」、「行為の完了」などを表す。

例： Det har regnet hele dagen i dag. <今日は一日中雨が降っていた。>

Han har ikke forandret sig, siden han var lille. <彼は幼い頃から、変わっていない。>

Jeg har været i Danmark tre gange. <私はデンマークに3回行ったことがある。>

Har du nogensinde mødt min far?

<これまでに私の父に会ったことがありますか？>

Jeg har lavet desserten færdig. <私はデザートを作り終えた。>

Hun har taget kørekort. <彼女は運転免許証を取得した。>

デンマーク語において現在完了形は、「過去の一時点」が副詞的の語句や文脈などによって示されない場合に、「過去に起きた事柄」を表すために用いられることが多い。そのため、現在完了形の使用は英語に比べて非常に多い。

例： Det har regnet. <雨が降った。>, Jeg har spist. <私は食事を取った。>

Jeg har tabt min pung. <私は財布を落とした。>

現在完了形は、主節で現在形が使われている場合に、従位節内で述べられる出来事がそれ以前の出来事であることを示すために、用いられる。

例： Han ringer til os, når han har talt med sin chef.

<彼は自分の上司と話をした後で、私たちに電話をかけてくる。>

Når I også har set den danske film, skal vi snakke om den.

<あなたたちもそのデンマーク映画を見たあとで、それについて話しましょう。>

過去完了形は、主節で過去形が使われている場合に、従位節内で述べられる出来事がそれよりも前の過去であることを示すために、用いられる。

例： I morges fortalte Hans, at hans kone var gået bort.

<今朝ハンスが、彼の妻が亡くなったと伝えてきた。>

Jeg vidste ikke, at du havde arbejdet i Japan.

<あなたが日本で働いていたことがあったとは知らなかった。>

また過去完了形は、英語の仮定法過去完了のように、過去の事実と反する事柄を表すために用いられる。主な用法は、過去形で確認したものと同じである。

例： Hvis jeg havde haft mere tid dengang, så havde jeg rejst til flere steder i verden.

<もしあの頃もっと時間があったなら、世界のより多くの場所へ旅行したのに。>

Bare jeg havde haft en lang ferie! <長い休暇を過ごしていたらなあ！>

## 5. 受動態

能動態と受動態という文法範疇が存在する。これは、簡単に言うならば、動詞（句）で表される動作・行為を、動作主の視点から叙述しているか、もしくは被動作主の視点から叙述しているかという違いによるものである。

能動態：Han roser mig. <彼は私を褒める。>

受動態：Jeg bliver rost (af ham). <私は（彼に）褒められる。>

デンマーク語の受動態には、大別して2種類の異なる形態がある。1つは語尾変化を伴う形態であり、変化語尾として不定詞形に -s を付加することから、s-受動と呼ばれる。もう1つは、助動詞 blive + 過去分詞という組み合わせによって形成され、blive-受動と呼ばれる。

### 5.1. s-受動

s-受動は動詞の不定詞形に -s を付加することで形成される。

例：lave <作る> — laves <作られる>

しかしながら現在形（例：laves）および過去形（例：lavedes）が存在するのみで、原則として、命令形、現在分詞形、過去分詞形は存在しない。また不定詞形については、at-不定詞（\*at laves）では用いられないが、法助動詞に支配される原形不定詞（laves）で用いられる。

#### 5.1.1. s-受動の用法

s-受動は、例えば「習慣的な事柄」、「規則」、「指図」などを表す際に用いられる。

例：Morgenkaffen serveres kl. 10. <10時に午前のコーヒータイムがある。>

Græsset må ikke betrædes. <芝生の上を歩くな！>

Løget hakkes og steges. <玉ねぎはみじん切りにして火を通すこと。>

### 5.2. blive-受動

blive-受動は、助動詞 blive + 過去分詞の組み合わせで形成される。

例：lave <作る> — blive lavet <作られる>

現在完了（er blevet lavet）あるいは過去完了（var blevet lavet）では常に blive-受動が用いられる。また、過去形は、話し言葉では専ら blive-受動が用いられる。

### 5.2.1. blive-受動の用法

blive-受動の現在形は、例えば「現在起こっている行為・状況」、「未来に起こる行為・状況」などを表す際に用いられる。

例： Dit navn bliver kaldt. <あなたの名前が呼ばれている.>

Hvornår bliver vores hus solgt? <私たちの家はいつ売れるだろうか?>

過去形そして完了形では、原則として blive-受動が用いられる。

例： Jeg blev rost af min chef. <私は上司に褒められた.>

Huset er blevet solgt. <家が売れた.>

#### 注意！

blive-受動が完了形で用いられている場合、完了の助動詞 være が省略されることがあるが、その際には意味が異なってくるので注意を要する。

例： Døren er blevet malet. <ドアはペンキが塗られた.>

Døren er malet. <ドアはペンキが塗られている.>

Døren er blevet malet. では、主語である døren に「ペンキを塗る (male)」という行為が加えられたこと自体に焦点があるのに対して、Døren er malet. では、主語である døren が「ペンキを塗る (male)」という行為が加えられた結果、生じた状態（例えばはげ落ちていたペンキが元通りのきれいな状態になっているなど）に焦点があると考えられる。

## 6. s 形動詞

デンマーク語には、動詞の不定詞形（見出し語形）が -s で終わっている動詞が存在する。これらを総称して s 形動詞と呼ぶ。s 形動詞に共通なのは、その特徴的な活用である。不定詞形と現在形が同じ形態、そして過去形と過去分詞形が同じ形態をしている。

不定詞形	現在形	過去形	過去分詞形	意味
synes	synes	syntes	syntes	思う
lykkes	lykkes	lykkedes	lykkedes	首尾よくいく
mødes	mødes	mødtes	mødtes	会う
slås	slås	sloges	sloges	喧嘩する

以下では、s 形動詞の表す意味内容に沿って、いくつかの s 形動詞を紹介する。

① 能動形が存在しない動詞（受動的意味を持たない動詞）

例：（）内は過去形および過去分詞形。

- ・ synes (syntes) <思う>

Jeg synes, du taler flot dansk. <あなたは見事なデンマーク語を話すと私は思う。>

- ・ findes (fandtes) <存在する>

Der findes mange forskellige sprog i verden. 世界には多くの様々な言語があります。

- ・ længes efter (længtes efter) <恋しく思う>

Vi længes efter forår. <私たちは春が恋しい。>

- ・ lykkes (lykkedes) <首尾よくいく>

Det lykkedes ham at købe en flybillet til Japan til en god pris.

<彼は日本行きの航空券をお得な値段で買うことができた。>

このグループに属するその他の動詞

trives (trivedes) <上手くやる>, mislykkes (mislykkedes) <失敗する>, nøjes med (nøjedes med) <～で我慢する, 納得する> etc.

② 「お互いに～しあう」という意味を表す動詞

「お互いに～しあう」という意味を表す s 形動詞は、主語が必ず複数でなければならない。

例：（）内は過去形および過去分詞形。

- ・ ses (sås) <会う>

Vi ses! <またね。>

- ・ mødes (mødtes) <会う>

Nina og jeg skal mødes foran Tivoli i morgen aften.

<ニナと私は明日の晩チボリ公園の前で会う。>

- ・ skændes (skændtes) <喧嘩する>

I skændes tit. <あなたたちはよく喧嘩する。>

このグループに属するその他の動詞

enes (enedes) <合意する>, følges (fulgtes) ad <一緒に行く>, skiftes (skiftedes) <交代する>, snakkes (snakkedes) ved / tales (taltes) ved <連絡を取り合う> etc.

## 7. 不定詞形

デンマーク語における不定詞形は、用法によって異なる 2 つの形態が存在する。at が直前に付けられたタイプの at-不定詞 (at komme) と at が付かない原形不定詞 (komme) である。

原形不定詞は、次のような場合に用いられる。

### ① 法助動詞とともに

例：Jeg vil gerne snakke med dig. <私はあなたと話したい。>

Han kan ikke svømme. <彼は泳げない。>

Man må ikke ryge her. <ここでタバコを吸ってはいけない。>

Skal vi ikke gå en tur? <散歩に行きませんか？>

### ② 特定の動詞とともに

例：Lad os gøre det! <そうしましょう！>

at-不定詞は、次のような場合に用いられる。

### ① 名詞的に

例：Det er svært at lære dansk. <デンマーク語を習得するのは難しい。>

Hun kan godt lide at lave mad. <彼女は料理をするのが好きだ。>

### ② 形容詞的に

例：Har du ikke noget at skrive med? <何か書くものは持っていませんか？>

### ③ 副詞的に

例：Jeg går ud at tjekke posten. <配達物を確認しに行ってきます。>

## 8. 現在分詞

現在分詞は、語幹に -ende を付加した形態である。

### 8.1. 現在分詞の用法

#### ① 動詞的に

例：Bliv siddende! <座ったままでいて！>

Pigerne kom syngende. <女の子たちは歌いながらやってきた。>

#### ② 形容詞的に

例：Vi skal have kogende vand. <私たちは沸騰しているお湯が必要だ。>

Byen får besøg af en rejsende cirkus. <町には旅するサーカス団が訪れます。>

## 9. 過去分詞

過去分詞は、完了形や blive-受動を形成する以外にも以下のような用法を持つ。

### 9.1. 過去分詞の用法

#### ① 形容詞的に

形容詞的に用いられる過去分詞は、対象となる名詞の性・数・限定／非限定（既知／未知）による呼応変化を伴う。

forbavset 〈驚いた〉	名詞			
	単数		複数	
	共性	中性	共性	中性
未知形	en forbavset dreng	et forbavset barn	forbavsede drenge	forbavsede børn
既知形	den forbavsede dreng	det forbavsede barn	de forbavsede drenge	de forbavsede børn

## 10. 法助動詞

デンマーク語には、上で確認したような完了形を形成する助動詞 have と være, そして blive-受動を形成する助動詞 blive 以外に、法助動詞と呼ばれる動詞のグループが存在する。通常、以下の6つの動詞が法助動詞とされる。

法助動詞の活用形は、不定詞形と過去形が同形であることや、現在形が特別な形態をしているといった点で特徴的である。

不定詞形	現在形	過去形	過去分詞形
burde	bør	burde	burdet
kunne	kan	kunne	kunnet
måtte	må	måtte	måttet
skulle	skal	skulle	skullet
turde	tør	turde	turdet
ville	vil	ville	villet

法助動詞は原形不定詞を伴う。

例： Hun kan svømme. 〈彼女は泳ぐことができる。〉

Man må ikke ryge her. 〈ここで喫煙してはいけない。〉

Skal vi gå en tur? 〈散歩に行きましょうか?〉

Jeg vil gerne tale med dig. 〈私はあなたと話したい。〉

以下では、このうち比較的使用頻度の高い, kunne, måtte, skulle, ville について取り扱う。

### 10.1. kunne

① 能力：～できる

例： Kan du tale dansk? <デンマーク語を話せますか?>

Hun kan svømme. <彼女は泳ぐことができる。>

#### 注意！

kunne が「能力」を表す場合には、原形不定詞を省略して目的語だけを取ることも可能である。

例： Han kan dansk. <彼はデンマーク語ができる。>

② 可能性：～かもしれない，～し得る，～あり得る

例： Min far kan hente os. <私の父が私たちを迎えに来てくれるかもしれない。>

Det kan være koldt i september i Danmark.

<デンマークでは9月で寒いということがあり得る。>

③ 許可：～してもよい

例： Du kan godt låne min cykel. <私の自転車を借りてもいいですよ。>

Kan jeg komme ind? <中へ入ってもいいですか?>

### 10.2. måtte

① 許可：～してもよい

例： Man må godt ryge her. <ここでは煙草を吸ってもよい。>

Må jeg låne din cykel? <あなたの自転車を借りてもいいですか?>

② 禁止：(否定辞を伴って) ～してはいけない

例： Man må ikke ryge her. <ここで喫煙してはいけない。>

Han må ikke drille mig. <彼は私のことをからかってはいけない。>

③ 必要：～しなくてはならない

例： Vi må gå nu, fordi vi får gæster i aften.

<私たちは今晚お客さんがあるので、もう行かないといけない。>

Han måtte betale 100 kr. i bøde, for han havde kørt for stærkt.

<彼は100 クローネの罰金を払わなければならなかった、というのも彼がスピード違反をしたからだ。>

④ 強い推量：～にちがいない

例： Han må i hvert fald være over 30. <彼は少なくとも30歳は超えているに違いない。>



Det må være hårdt at blive færdig med sådan et stort projekt på et år.

〈そんな大きなプロジェクトを1年で終わるということは大変に違いない〉

**注意！**

法助動詞 *måtte* は、「必要」を表す際には、s-受動を取り、また「強い推量」を表す場合には *blive*-受動を取るの注意が必要である。

例： Han må opereres med det samme. 〈彼はすぐに手術される必要がある〉

Han må blive opereret. 〈彼は手術されるに違いない〉

### 10. 3. skulle

① 予定：～する，～することになっている，～することになっている

例： Vi skal besøge vores børn i København i weekenden.

〈私たちはコペンハーゲンにいる自分たちの子供を週末に訪ねます〉

Hvad skal I give hende i julegave?

〈彼女にクリスマスプレゼントに何をあげることにしていますか？〉

② 必要・義務・要求：～しなくてはならない

例： Man skal betale skat. 〈税金を支払わなくてはならない〉

Min læge siger, at jeg skal spise flere grøntsager.

〈私の主治医は、私はもっと野菜を食べなくてはならないと言っている〉

③ 約束：(きつと) ～します，～するようにしましょう

例： Jeg skal nok reparere bilen til i morgen.

〈明日までにその車を修理しておくようにします〉

Hils din familie!

— Det skal jeg nok.

〈あなたの家族に宜しく伝えて下さい！〉 — 〈そうします〉

④ 勧誘：～しませんか，～しましょうか

例： Skal vi ikke holde pause? 〈休憩にしませんか？〉

Skal vi gå en tur? 〈散歩に行きましょうか？〉

**注意！**

「予定」や「義務」を表す *skulle* が、方向を表す副詞句あるいは前置詞句とともに使われる場合は、移動を表す動詞は省略される。

例： Vi skal ud at gå en tur. 〈私たちは散歩に出かけます〉

Hvor skal du hen? 〈どこに行くの？〉

## 動 詞

Jeg skal på posthuset. <私は郵便局に行きます.>

De skal i biografen i aften. <彼らは今晚映画館に行きます.>

### 注意！

法助動詞 *skulle* は、「予定」や「義務」を表す際には、s-受動を取り、また「約束」を表す場合には *blive*-受動を取るのに注意が必要である。

例： Børnene skal hentes indtil kl. 16.

<子供たちは16時までに迎えに来られなければならない。>

Børnene skal blive hentet indtil kl.16.

<子供たちは16時までに迎えに来られるようにします。>

## 10.4. ville

① 願望：～したい

例： Jeg vil gerne have en stor sofa. <私は大きなソファが欲しい。>

Han vil hellere have kaffe end te. <彼はお茶よりもコーヒーの方が欲しい。>

Hun vil helst cykle. <彼女は何か何でも自転車でいきたい。>

② 意図：～するつもりだ

例： Jeg vil selv planlægge turen til Japan.

<私は日本への旅行を自分で計画するつもりだ。>

Jeg vil ikke hjælpe ham mere. <私は彼をこれ以上手伝うつもりはない。>

③ 単純未来・予測：～だろう

例： Han vil snart blive rask. <彼はもうすぐ元気になるでしょう。>

Vi vil huske hende for evigt. <私たちは彼女のことをずっと覚えているでしょう。>

### 注意！

「願望」や「意図」を表す *ville* が、方向を表す副詞句あるいは前置詞句とともに使われる場合は、移動を表す動詞は省略される。

例： Vi vil ud at gå en tur. <私たちは散歩に出かけます。>

Jeg vil i biografen i aften. <私は今晚映画館に行きたい。>

### 注意！

法助動詞 *ville* は、「願望」や「意図」を表す際には、s-受動を取り、また「単純未来」を表す場合には *blive*-受動を取るのに注意が必要である。

例： Han vil roses. <彼は褒められたい。>

Han vil blive rost. <彼は褒められるでしょう。>

## 11. ユニット強勢

デンマーク語にはユニット強勢と呼ばれる現象がある。これは、ある語と語がひとまとまりとなって、意味を為す場合に起こる。ここでは動詞に関連するユニット強勢について述べる。

ある動詞がそれに続く何らかの要素とひとまとまりになってある特別な意味を表す場合には、本来であれば動詞に置かれるはずの強勢はなくなり、その強勢は動詞に続く要素に移る。

### ① 動詞＋（不定冠詞や定冠詞が付かない）目的語

この場合、動詞に続く名詞はどんな限定詞（不定冠詞や定冠詞）も伴わない。（太字体はそこに強勢が置かれることを示す。）

例：lave **mad**〈料理をする〉, holde **fest**〈パーティを開く〉, se **fjernsyn**〈テレビを見る〉, høre **radio**〈ラジオを聞く〉, holde **pause**〈休憩する〉, vaske **hænder**〈手を洗う〉, børste **tænder**〈歯磨きをする〉, tjene **penge**〈お金を稼ぐ〉, få **besøg**〈訪問を受ける〉, tage **fejl**〈間違える〉, køre **bil**〈車を運転する〉 etc.

### 注意！

se fjernsyn〈テレビを見る〉には、ユニット強勢が起こる。一方、se et fjernsyn というように〔動詞＋不定冠詞＋目的語〕という言い方もあり、この場合、強勢は fjernsyn ばかりではなく、動詞 se にも置かれる。またこれら2つの言い方は意味の点でも異なる。se fjernsyn は〈テレビを見る〉つまり〈テレビから流れる映像を（情報を得る／リラックスする等のために）見る〉という行動・行為を意味するのに対して、se et fjernsyn は〈ある1台のテレビ受信機が見えている〉という意味を表しており、この場合は fjernsyn が具体的に〈テレビ（という電化製品）〉のことを表している。

したがって日本語で〈テレビを見る〉と言った場合には、多くの場合が〈テレビ番組を見る〉という意味であろうから、対応するデンマーク語は se fjernsyn となるのだが、例えば何らかのテストあるいは検査等で、テレビの絵が描かれたカードを提示され、「何が見えていますか？」などと質問された場合に、「テレビが見えています」と言う場合には、対応するデンマーク語は se et fjernsyn となる。

### ② 動詞＋副詞

この場合にも強勢は動詞には置かれず、副詞に置かれる。（太字体はそこに強勢が置かれることを示す。）

例：Vil du trække rødvinen **op**?〈赤ワインを開けてもらえますか?〉

Har du din paraply **med**?〈あなたは自分の傘を持っていますか?〉

## 動 詞

Gider du godt lukke **op**? <ドアを開けてもらえますか?>

Jeg skal købe **ind**. <私は買い出しに行きます。>

Hvad tid skal du stå **op** i morgen? <明日あなたは何時に起きますか?>

Vi kan stå **på** her. <私たちはここで乗車できます。>

etc.

### ③ 動詞 gå + 副詞句

動詞 gå はユニット強勢を起こすことが多い動詞である。以下にいくつか例をあげる。(太字体はそこに強勢が置かれることを示す。)

例： gå **til venstre** <左へ行く>, gå **til højre** <右へ行く>, gå **i skole** <学校に通う>, gå **i seng** <就寝する>, gå **i bad** <お風呂に入る>, gå **på arbejde** <仕事に行く>, gå **til læge** <医者に通う> etc.

## 副詞

デンマーク語の副詞の多くは語形変化をしない。

### 1. 一般的な副詞

#### 1.1. 「場所／方向」を表す副詞

der〈そこ〉, her〈ここ〉, væk〈去って, 離れて〉, tilbage〈戻って, 帰って〉, hjemmefra〈家から〉 etc.

例： Ham der, han hedder Jean. 〈そこにいる彼, 彼はジャンといいます。〉

Her vil jeg ikke spise. 〈ここでは私は食事をしたくない。〉

Hunden er løbet væk. 〈その犬は逃げてしまった。〉

Hunden er kommet tilbage. 〈その犬は戻ってきた。〉

Hvornår skal du flytte hjemmefra? 〈いつ実家から引っ越しますか?〉

デンマーク語の副詞には、方向を表す副詞に語尾 *-e* を付けて、場所を表す副詞として使うことができる副詞のグループが存在する。

方向を表す副詞	意味	場所を表す副詞	意味
hen	(少し離れた) そこへ	henne	(少し離れた) そこで
ind	中へ	inde	中で
ud	外へ	ude	外で
ned	下へ	nede	下で
op	上へ	oppe	上で
over	向こう側へ	ovre	向こう側で
frem	前へ	fremme	前で
hjem	家へ	hjemme	家で

例： Han går hen til vinduet. 〈彼は窓のところへ行きます。〉

Kirken ligger henne ved stationen. 〈教会は駅のそばにあります。〉

Hun går ind i huset. 〈彼女は家の中へ入ります。〉

De sidder inde i stuen. 〈彼らは居間に座っています。〉

Han går ud i haven. 〈彼は庭へ出ます。〉

Vi spiser ude i aften. 〈私たちは今晚外で食事をします。〉

Hun går ned på gaden. 〈彼女は通りに下ります。〉

Hun er nede i kælderen. 〈彼女は地下室にいます。〉

Han går op på loftet. 〈彼は屋根裏へ上がります。〉

Han er oppe på loftet. 〈彼は屋根裏にいます。〉

Vi går over til Nyhavn. 〈私たちはニューハウンに向かって [広場を] 渡ります。〉

## 副 詞

De holder ferieovre i USA.

〈彼らは〔海の向こうの〕アメリカで休暇を過ごします。〉

Vi skal lidt frem. 〈私たちは少し前に出ます。〉

Hvornår er vi fremme? 〈私たちはいつ到着しますか?〉

Vi skal hjem. 〈私たちは帰宅します。〉

Jeg arbejder hjemme i dag. 〈私は今日家で仕事をします。〉

### 1.2. 「時」を表す副詞

nu 〈今〉, da 〈あの時〉, før 〈以前に〉, endnu 〈まだ〉, altid 〈いつも〉, ofte 〈頻繁に〉, igen 〈再び〉, snart 〈もうすぐ〉, straks 〈すぐに〉, stadigvæk 〈依然として〉, tit 〈頻繁に〉, allerede 〈既に〉, pludselig 〈突然に〉, endelig 〈ついに〉, somme tider 〈時々〉 etc.

例： Hvad er klokken nu? 〈今、何時ですか?〉

Har du været i Danmark før? 〈以前にデンマークに来たことがありますか?〉

Jeg har endnu ikke været i Japan. 〈私はまだ日本に行ったことはありません。〉

Han kommer altid for sent. 〈彼はいつも遅れてくる。〉

Vi inviterer ofte vores venner til middag.

〈私たちはよく友人たちをディナーに招待する。〉

Toget kommer snart. 〈電車はもうすぐやってきます。〉

Det ringer på døren igen. 〈ドアのベルがまた鳴っている。〉

Her er stadigvæk koldt. 〈ここはまだ寒い。〉

### 1.3. 「様態」を表す副詞

gerne 〈喜んで〉, alene 〈ひとりで〉, sammen 〈一緒に〉 etc.

例： Hun bor alene. 〈彼女はひとりで暮らしている。〉

De bor sammen. 〈彼らは一緒に暮らしている。〉

### 1.4. 「程度」を表す副詞

temmelig 〈かなり〉, helt 〈全く〉, lige 〈ちょうど〉, kun 〈〜だけ〉, meget 〈とても〉 etc.

例： Det gør meget ondt. 〈とても痛い。〉

Jeg er lige så høj som dig. 〈私はあなたとちょうど同じだけ背が高い。〉

Vandet er temmelig koldt. 〈水はかなり冷たい。〉

### 1.5. 「判断」を表す副詞

desværre 〈残念ながら〉, heldigvis 〈幸運なことに〉, måske 〈ひょっとすると〉, nok 〈〜だろう〉, vist 〈きっと〜だろう〉, vel 〈〜だろう〉 etc.

例： Han kommer desværre ikke. 〈彼は残念ながら来ない。〉

Hun kommer måske. 〈彼女は来るかもしれない。〉

De kommer nok. 〈彼らは来るだろう。〉

## 1.6. 「話し手の聞き手に対する心情」を表す副詞：da, jo, nu, ellers etc.

### 1.6.1. da

話し手が相手に対して反対・抗議の気持ちがあることを表す、また話し手と相手の双方ともに了解している事柄、あるいは明白な事柄に注意を喚起するために用いられる。

例： A: Martin og Bente kommer til middag i morgen aften, ikke?

〈マーティンとベンデは明日の晩のディナーに来ますよね?〉

B: Nej, de er da på ferie.

〈いいえ、彼らは休暇中でないでしょ！（あなたはそのことを知っているじゃないですか!）〉

### 1.6.2. jo

陳述内容が相手との間で共通認識であることを喚起するために用いられる。

例： A: Det bliver vist regnvejr. <どうやら雨天になるようです。〉

B: Det sagde vejrmeldingen også. I morges skinnede solen jo så dejligt.

〈それは天気予報も言っていました。（あなたもご存知でしょうけど）今朝は陽が気持ちよく照っていましたよね。〉

### 1.6.3. nu

相手の発言に対して、話し手が相手の知らない事柄を述べていることを示すために用いられる。

例： A: Hvor tit sner det i Danmark?

〈デンマークではどれくらい頻繁に雪が降りますか?〉

B: Det sner nu ikke så tit.

〈(あなたはどのように尋ねていますが、実は)それほど頻繁には雪は降らないんですよ。〉

### 1.6.4. ellers

相手の発言に対して「しかし～なんだけどなあ」という話し手の心情を表す。

例： A: I Japan spiser man ikke kinakål rå. <日本では白菜を生では食べません。〉

B: Er det rigtigt? Det smager ellers godt.

〈本当ですか？（あなたはそう言いますが）美味しいんだけどなあ。〉

## 1.7. 「否定」を表す副詞

ikke〈～ない〉, aldrig〈一度も～ない〉, næppe〈まず～ない〉etc.

例：Jeg har aldrig været i Rusland.〈私は一度もロシアに行ったことがない〉  
De holder næppe fri.〈彼らはまず休まない〉

## 1.8. 「接続」を表す副詞：先行する文との関係を表す

derfor〈だから〉, altså〈したがって, すなわち〉, ellers〈さもなければ, そうでない場合には〉etc.

例：Vi sov over os i morges, derfor kom vi begge to for sent på arbejde.  
〈私たちは今朝寝坊をした, だから二人とも仕事に遅刻した〉  
Du må skynde dig, ellers når du ikke toget.  
〈あなたは急がなくてはならない, そうしないと電車に間に合いません〉

## 1.9. 副詞の比較変化

いくつかの副詞は, 語尾による比較変化を行なう。

原級	意味	比較級	最上級
gerne	喜んで	hellere	helst
lidt	少し	mindre	mindst
længe	長い間	længere	længst
meget	とても	mere	mest
ofte	頻繁に	oftere	oftest

例：Jeg vil hellere have kaffe end te.〈私はお茶よりもコーヒーが欲しい〉  
Min lillebror rejser mest i min familie.〈私の家族では弟が一番旅行している〉

## 2. 疑問副詞

疑問副詞とは, 話し手にとって未知である要素について尋ねるために使われる副詞のことで, 疑問文を導く。

**hvor** : どこ

例：Hvor ligger Københavns Hovedbanegård?  
〈コペンハーゲン中央駅はどこにありますか?〉  
Hvor kommer han fra? 〈彼はどこの出身ですか?〉



**hvornår** : いつ

例： Hvornår skal du flytte? <あなたはいつ引っ越しますか?>

Hvornår er din fødselsdag? <あなたの誕生日はいつですか?>

**hvorfor** : なぜ, どうして

例： Hvorfor cykler du ikke i dag? <なぜ今日は自転車で行かないのですか?>

Hvorfor har du ikke fortalt mig det?

<どうしてそのことを私に教えてくれなかったのですか?>

**hvordan** : どのように

例： Hvordan kommer du hjem? <あなたはどうやって家に帰りますか?>

Hvordan har din dag været? <あなたの一日はどのようなでしたか?>

疑問代名詞 *hvor* は、形容詞や副詞とともに使われる場合があり、その場合は、該当する形容詞や副詞が表す内容の程度について尋ねる。

例： Hvor gammel er han? <彼は何歳ですか?>

Hvor lang tid tager det at rejse til Japan?

<日本へ旅行するのにどれくらい時間がかかりますか?>

Hvor længe skal du blive i Danmark?

<あなたはデンマークにどれくらいの間滞在する予定ですか?>

Hvor mange gange har du været i Italien?

<あなたはこれまでにイタリアに何回行ったことがありますか?>

Hvor meget koster det? <それはいくらですか?>

Hvor tit besøger du dine forældre?

<あなたはどれくらい頻繁に自分の両親を訪ねますか?>

また、疑問副詞 *hvor* は感嘆文においても用いられる。

例： Hvor er det varmt! <何て暑いんだ!>

Hvor det larmer her! <ここは何てうるさいんだ!>

### 3. 関係副詞

関係副詞 *hvor* は、先行詞が「場所」や「時」を指す名詞句である場合に用いられる。

例： Den by, hvor hun bor, hedder Ribe. <彼女が住んでいる町はリーベといいます。>

Der var mange tyfoner i det år, hvor vi kom til Japan.

<私たちが日本へやってきた年には、たくさんの台風がきた。>

## 前置詞

以下にデンマーク語の主な前置詞と、その主な意味を記述する。

### 1. ad

～に沿って；～を通過して／を通り抜けて；～に向かって

例： Så går vi lidt ad Store Strandstræde.

〈それから私たちはストアストランストレーゼに沿って行きます。〉

Vi skal op ad trappen. 〈私たちは階段を上って行きます。〉

Vi grinede ad ham. 〈私たちは彼のことを笑った。〉

### 2. af

① [場所]：～から

例： Han går ud af huset. 〈彼は家から外に出る。〉

② [部分]：～の

例： De fleste af os var trætte efter den lange rejse.

〈私たちの大部分はその長旅の後で疲れていた。〉

③ [材料]：～からできている

例： Halskæden er lavet af sølv. 〈ネックレスは銀でできている。〉

④ [行為者]：～によって

例： Han blev rost af sin far. 〈彼は自分の父に褒められた。〉

### 3. efter

[時間]：～のあとで，～過ぎに

例： Kan jeg ringe til dig efter frokostpausen?

〈昼休みの後、あなたに電話をしてもいいですか？〉

### 4. for

① [場所]：～の前に・で

例： Han sætter kikkerten for øjet. 〈彼は望遠鏡を目に当てる。〉

② [時間]：～より前に (for ~ siden)

例： For tre dage siden så jeg ham på gaden. 〈3日前に私は彼を通りで見かけた。〉

③ ～にとって

例： Det er svært for mig at forstå dansk.

〈私にとってデンマーク語を理解することは難しい。〉

④ ～の代わりに

例： Er der et andet ord for ”planter” ?

〈「植物」の代りのことばはありますか？〉

⑤ [対象]：～のための

例： H.C. Andersens eventyr er ikke kun for børn, men også for voksne.

〈アンデルセン童話は子供のためだけのものではなく、大人のためのものでもある。〉

⑥ [目的]：～するために (for at ～)

例： Jeg ringede til ham for at trøste ham. 〈私は彼を慰めるために彼に電話した。〉

## 5. foran

[場所]：～の前に・で

例： Kan vi mødes foran biblioteket? 〈図書館の前で待ち合わせできますか？〉

## 6. forbi

～を通り越して

例： Vi skal forbi Tivoli hen til Strøget.

〈私たちはチボリ公園を通り抜けてストロイエズまで行きます。〉

## 7. fra

[時間・場所]：～から

例： Jeg kommer fra Japan. 〈私は日本出身です。〉

Biblioteket har åbent fra 9 til 17. 〈図書館は9時～17時まで開いている。〉

## 8. før

～より前に

例： Man må ikke åbne julegaven før juleaften.

〈クリスマスイヴより前にクリスマスプレゼントを開けてはいけません。〉

## 9. gennem / igennem

[場所]：～を通して

例： Toget kører igennem tunnelen. <電車はトンネルを通過して行きます。>

[時間]：～を通して

例： Vi har kendt hinanden gennem mange år.

<私たちはお互いのことを長年を通じて知っています。>

## 10. hos

～のところに・で

例： Jeg bliver hos mine forældre i weekenden. <週末私は自分の両親のところにいます。>

## 11. i

① [場所]：～の中で・に

例： Salaten står inde i køleskabet. <サラダは冷蔵庫の中にあります。>

Jeg bor i Osaka. <私は大阪に住んでいます。>

② [方向]：～へ

例： Vi skal i biografen i aften. <私は今晚映画館へ行きます。>

Jeg går i bad. <私はお風呂に入ります。>

③ [現在，未来の一時点を表す]：以下のような副詞句を形成する

例： i dag <今日>， i morgen <明日>， i overmorgen <明後日>， i næste uge <来週>， i juli <7月>に， i denne måned <今月>， i år <今年> etc.

④ [過去の一時点を表す]：以下のような副詞句を形成する

例： i morges <今朝>， i formiddags <(既に過ぎ去った) 午前中に>， i eftermiddags <(既に過ぎ去った) 午後>に， i går <昨日>， i går aftes <昨晩>， i forgårs <一昨日>， i mandags <この前の月曜日に> etc.

⑤ [期間]：～間

例： Jeg har læst dansk i tre år. <私はデンマーク語を3年間学んだ。>

## 12. med

① ～とともに， ～と一緒に

例： Jeg spiser frokost med Liva. <私はリーヴァと一緒に昼食を食べる。>

② [手段]：～を使って・用いて

例： Man spiser med spisepinde i Japan. <日本では箸を使って食事する.>

Jeg kører med bus hver morgen. <私は毎朝バスで通っている.>

### 13. mellem / imellem

[場所・時間]：～の間に

例： Roskilde ligger mellem København og Odense.

<ロスキレはコペンハーゲンとオーゼンセの間にある.>

Posten kommer mellem 10 og 11. <郵便は 10 時から 11 時の間に来る.>

### 14. mod / imod

① [方向]：～に向かって

例： Vi skal tage toget mod Helsingør.

<私たちはヘルスィングウーア行きの電車に乗ります.>

② ～に対して

例： De var utrolig venlige mod os. <彼らは私たちに対してとても親切だった.>

Vi protesterer mod skatteforhøjelsen. <私たちは増税に対して反対する.>

### 15. om

① ～について

例： Denne bog handler om Danmark. <この本はデンマークについて扱っている.>

② [場所]：～の周りで

例： Træerne om huset er sprunget ud. <家の周りの木々は芽を出した.>

③ [時間]：(今から)～後に、～経ったら

例： om lidt <少ししたら>, om en time <1 時間後に>, om tre dage <3 日後に>, om en uge <1 週間後に>, om fjorten dage <2 週間後に>, om en måned <1 ヶ月後に>, om to år <2 年後に>

④ [時間]：毎～、～の間

例： Vi bor i vores sommerhus i Gilleleje om sommeren.

<私たちは夏の間ギレライイの別荘に住みます.>

Jeg spiller badminton om onsdagen.

<私は水曜日にバドミントンをしています.>

Han kommer til Japan en gang om året. <彼は年に 1 回日本へ来る.>

## 16. omkring

① [場所] : ~の周りで

例 : Man danser rundt omkring juletræet juleaften.

〈クリスマスイヴには、クリスマスツリーの周りを踊って周る。〉

② 約~, ~頃

例 : Der er omkring 100 mennesker i hallen. 〈ホールには約 100 人がいる。〉

De kommer omkring kl. 6 i aften. 〈彼らは今晚 6 時頃に来る。〉

## 17. over

① [場所] : ~の上方で・に

例 : Flyvemaskinen flyver over os.

〈飛行機は私たちの頭上を飛んでいきます。〉

② [方向] : ~を越えて, ~を渡って

例 : Vi går over broen. 〈私たちは橋を渡ります。〉

③ [程度] : ~を超えて

例 : Der er over 30 grader i dag. 〈今日は気温が 30 度以上ある。〉

④ [時間] : ~を過ぎて

例 : Klokken er kvart over 3. 〈3 時 15 分です。〉

## 18. på

① [場所] : ~の上で・に・へ

例 : Der er en vase på bordet. 〈机の上に花瓶が 1 つある。〉

Man må ikke cykle på fortovet. 〈歩道で自転車に乗ってはいけません。〉

② [特定の施設に関して] : ~で・に・へ

例 : Vi sidder på en café. 〈私たちはカフェに座っている。〉

Jeg ser hende tit på biblioteket. 〈私は彼女を図書館でよく見かける。〉

③ [未来の一時点を指す]

例 : Kan vi ikke mødes på tirsdag? 〈今度の火曜日会えませんか?〉

Lad os tale videre om det igen på fredag!

〈今度の金曜日にそれについてまたさらに話しましょう。〉

④ [所要時間] : ~で

例 : Jeg har skrevet min opgave på to dage. 〈私は自分の課題を 2 日で書きあげた。〉

⑤ ～語で

例： Hvad hedder det på dansk? <これはデンマーク語で何といいますか?>

19. til

① [目的地]：～（のところ）へ，～に（向かって），～まで

例： Han rejser til Frankrig på torsdag. <彼は今度の木曜日にフランスへ行きます.>

② [利用・目的]：～のために

例： Hvad bruger man det til? <これは何のために使いますか?>

③ [現在あるいは未来の一時点を指して]：～（のとき）に，～の時点に

例： Jeg bliver 19 til sommer. <私は夏に19歳になります.>

④ [時間・期間]：～まで

例： Arne Jakobsen levede fra 1902 til 1971.

<アーネ・ヤコブソンは1902年から1971年まで生きた.>

⑤ [代価]：～の価格で

例： Det lykkedes ham at købe flybilletten til en god pris.

<彼はその航空券をお得な値段で買うことができた.>

20. uden

～のない，～なしに

例： Han drikker altid kaffe uden mælk. <彼はいつもコーヒーをミルクなしでの飲む.>

21. under

① [場所]：～の下に・で

例： Hunden ligger under bordet. <犬はテーブルの下に横になっています.>

② [期間]：～の時に，～の間に

例： De sov under hele forelæsningen. <彼らは講義の間中ずっと寝ていた.>

22. ved

① [場所]：～の近くに・で，～のそばに・で

例： Kirken ligger ved stationen. <教会は駅のそばにある.>

## 前置詞

② [時間] : 約~, およそ~, ~頃

例 : De kommer ved 6-tiden. <彼らは6時頃に来ます.>

③ [手段] : ~することによって

例 : Det lykkedes os at nå flyet ved at tage en taxa til lufthavnen.

<空港までタクシーで行くことで、私たちは飛行機に間に合うことができた.>

### 注意!

前置詞は基本的には強勢が置かれないことが多いが、いくつかの場合に強勢が置かれることがあるので注意を要する。(太字体の前置詞は、そこに強勢が置かれることを示す。)

① 前置詞+人称代名詞

例 : Vi ringer til politiet. <私たちは警察に連絡します.>

Vi ringer **til** hende for at spørge om, hvordan hun har det.

<私たちは彼女の様子をたずねるために電話します.>

De har snakket om den franske film. <彼らはそのフランス映画について話した.>

De har tit snakket **om** det. <彼らはそれについて頻繁に話した.>

Vi har tænkt på Yoshiko. <私たちはヨシコのことを考えていた.>

Vi har tænkt **på** hende. <私たちは彼女のことを考えていた.>

② 前置詞+従位節

例 : Jeg er forbavset **over**, at du roder så meget på dit værelse.

<私は、あなたがこんなに部屋を汚していることに驚いた.>

Vi er helt sikre **på**, at du kan bestå eksamen.

<私たちは、あなたが試験に受かると確信しています.>

### 注意!

いくつかの前置詞は、副詞としても用いられる。副詞として機能している場合には、必ず強勢が置かれる。(太字体は、そこに強勢が置かれることを示す。)

例 : Kan du trække gardinet **for**? <カーテンを閉めてもらえますか?>

Kan du trække rødvinen **op**? <赤ワインを開けてもらえますか?>

Jeg skal skrive min opgave **om**. <私は自分の課題を書き直さないといけない.>

Husk at tage noget varmt tøj **på**! <暖かい服を着ていくことを忘れずに.>

Vi skal **af** næste gang. <私たちは次で降ります.>

Vil du **med** i biografen? <映画館へ一緒に行きますか?>

Hun siger mig altid noget **imod**. <彼女はいつも私に反論します.>

Jeg sov **over** i morges. <私は今朝寝坊しました.>



## 接続詞

デンマーク語の接続詞には、等位接続詞、従位接続詞、同位接続詞の3種類がある。これら3種類の接続詞の違いを理解するために、まず完結文、主節そして従位節について説明する。そのあとで、上記3つのグループに属する接続詞について述べる。

### 1. 完結文

完結文とは、その文が単独で存在することができ、別の文に従属しない文のことである。例えば、1つの述部から成る文は完結文である。

例： *Jeg hedder Rie.* <私はリエといいます。>

*Jeg kommer fra Japan.* <私は日本出身です。>

*Hvad hedder du?* <あなたの名前は何か？>

*Vi taler desværre ikke svensk.* <私たちは残念ですがスウェーデン語は話しません。>

また、複数の述部から成る文も完結文となり得る。

例： *Hun er englænder, og han er franskmand.*

<彼女はイギリス人で、彼はフランス人です。>

*Det regner, men det blæser ikke så stærkt.*

<雨は降っているが、風はそれほど強く吹いていない。>

*Jeg ringer til dig, når jeg kommer.* <私が来るときはあなたに電話します。>

*Da han var lille, ville han være kok.* <彼は幼かった頃、コックになりたかった。>

完結文でない文は、1つの文としては不十分であり、意味を為さないというように言うこともできる。

例： *Når jeg kommer,* <私が来るときは、>

*Da han var lille,* <彼が幼かった頃、>

### 2. 主節と従位節

上で複数の述部から成る完結文について触れた。そのような完結文において、別の節に支配される節（＝別の節がなければ意味を為さない節）を従位節、それに対して別の節に支配されない節（＝別の節がなくても意味を為す節）を主節と呼ぶ。以下の例文のイタリック体の部分が主節、そして太字体の部分が従位節である。

例： *Jeg ringer til dig, **når jeg kommer.*** <私が来るときはあなたに電話します。>

***Da han var lille, ville han være kok.*** <彼は幼かった頃、コックになりたかった。>

***Jeg synes, at det er svært at lære dansk.***

<私はデンマーク語を学ぶのは難しいと思います。>

### 3. 等位接続詞

等位接続詞には、対等な語（句）と語（句）あるいは節と節を、つなぐ機能がある。また節をつなぐ場合には、完結文同士をつなぐ。

#### 3.1. og〈～と、そして〉

例： Pia og Janus har undervist i dansk i Osaka.

〈ピーアとイエーヌスは大阪でデンマーク語を教えたことがある。〉

Hun er englænder, og han er franskmand.

〈彼女はイギリス人で、彼はフランス人です。〉

#### 3.2. eller〈それとも、あるいは〉

例： Skal vi mødes på mandag eller på onsdag?

〈今度の月曜日に会いましょうか？それとも水曜日に会いましょうか？〉

Skal vi gå nu, eller skal vi blive lidt længere?

〈もう行きましょうか？それとももう少し長くいましょうか？〉

#### 3.3. men〈しかし〉

例： Det regner, men det blæser ikke så stærkt.

〈雨は降っているが、風はそれほど強く吹いていない。〉

Jeg kan godt lide frikadeller, men jeg hader lakrids.

〈私はフリカデレは好きですが、甘草アメは大嫌いです。〉

### 4. 従位接続詞

ある節を他の節に従わせる役割を持つ接続詞のことを従位接続詞と呼ぶ。この従位接続詞によって導かれる節は従位節と呼ばれる。従位節は、先にも確認したが、別の節と一緒に初めて初めに完結文となる。

以下に、デンマーク語の従位接続詞のうちのいくつかを、それらが表す概念や機能に分類しながら挙げていく。

#### 4.1. 「時」

##### 4.1.1. da

：過去に実際にあった一時点を指す：「～した時、～だった頃」

例： Da han var ude at købe ind i går, mødte han sin nabo i supermarkedet.

〈彼が昨日買い物に出ていた時、彼はスーパーで自分の隣人に会いました。〉

#### 4.1.2. når

① 未来のある時を指す：「～したら」

例： Når jeg bliver stor, vil jeg være læge. <私は大きくなったら、医者になりたい。>

② 何度も繰り返される時を指す：「～するときはずっと」

例： De hører radio, når de spiser morgenmad.

<彼らは朝食を食べる時はいつもラジオを聞きます。>

③ 過去において何度も繰り返された時を指す：「～したときはずっと」

例： Når jeg kom hjem fra skole, spiste jeg frokost.

<私は学校から帰るといつも、昼食を食べたものでした。>

#### 4.1.3. siden

「～して以来」

例： Han har ikke forandret sig, siden han var lille.

<彼は幼い頃からずっと変わっていない。>

#### 4.1.4. før

「～より前に」

例： I skal børste tænder, før I går i seng. <寝る前に歯を磨きなさい。>

#### 4.1.5. efter at

「～の後に」

例： Efter at vi så filmen, spiste vi på restaurant.

<映画を見たあとに、私たちはレストランで食事をした。>

#### 4.1.6. mens

「～の間に」

例： Vil du godt gøre rent i stuen, mens jeg laver mad?

<私が食事を作っている間にリビングを掃除してもらえますか？>

### 4.2. 「条件」

#### 4.2.1. hvis

「もし～ならば」

例： Hvis det bliver godt vejr i weekenden, tager vi til Klampenborg.

<もし週末良い天気になれば、私たちはクランベンボーへ行きます。>

### 4.3. 「理由」

#### 4.3.1. fordi

「～なので」

例： Jeg skal hjem nu, fordi jeg skal tidligt op i morgen.

〈私は明日早く起きなければならないのでもう帰らないといけません。〉

#### 注意！

理由を表す *fordi* で文を始めることは原則としてできない。つまり、上の例文では従位節を文頭に置くことはできないということである。

× *Fordi jeg skal tidligt op i morgen, skal jeg hjem nu.*

### 4.4. 「譲歩」

#### 4.4.1. selv om

① 「～ではあるが」

例： Jeg cykler hjem, selv om det øsregner.

〈土砂降りだけれども、私は自転車で家に帰る。〉

② 「たとえ～であろうとも」

例： Selv om det ikke bliver godt vejr i morgen, tager vi til Klampenborg.

〈たとえ明日良い天気にならなくても、私たちはクランベンボーに行きます。〉

### 4.5. 「対比, 対立」

#### 4.5.1. mens

「一方」

例： Mens det var rigtig varmt i går, sner det i dag.

〈昨日はほんとうに暑かった、一方、今日は雪が降っている。〉

### 4.6. 「目的」

#### 4.6.1. så

「～するように」

例： Vi har lukket vinduerne, så vi ikke fryser.

〈寒くならないように、私たちは窓を閉めた。〉

## 4.7. 「名詞節を導く」

### 4.7.1. at

名詞節を導く

例： Jeg tror, (at) han kommer. <私は、彼が来ると思います。>

Jeg synes, (at) filmen er god. <私は、その映画は面白いと思います。>

Jeg håber, at det lykkes dig at få et job.

<私はあなたが仕事を得られることを願います。>

### 4.7.2. om

疑問文を伴わない間接疑問文を導く

例： Han har spurgt mig, om jeg taler dansk.

<彼は私がデンマーク語を話すかと尋ねてきた。>

Jeg ved ikke, om han kommer eller ej. <私は彼が来るかどうか知りません。>

## 5. 同位接続詞

同位接続詞は、2つの完結文を接続する機能を持つ。しかしながら、その接続の仕方は、等位接続詞とは異なっている。詳しくは後述するが、まずデンマーク語の同位接続詞には以下のようなものがある。

### 5.1. for <というのは>

例： Jeg kunne ikke komme til festen, for min mand blev pludselig syg.

<私はパーティに行くことができませんでした、というのは私の夫が突然病気になったからです。>

Jeg kan ikke lide lakrids, for det smager som tandpasta.

<私は甘草アメが好きではありません、というのはそれが歯磨き粉のような味にするからです。>

### 5.2. så <それで、そういうわけで、だから>

例： Jeg sov over mig, så jeg kunne ikke komme til tiden.

<私は寝過ぎた、だから時間通りに来ることができなかった。>

Min pc er gået i stykker, så jeg kunne ikke tjekke mail.

<私のパソコンが壊れた、だからメールをチェックすることができなかった。>

### 5.3. 等位節と同位節の違い

まず等位接続詞を使った例文について述べる。

例： Jeg er sulten, og jeg er tørstig. <私はお腹が空いていて、そして喉が渇いている。>

この例文では、① jeg er sulten と ② jeg er tørstig という文が等位接続詞 og によって結びつけられている。等位接続詞の特徴は、①と②の文を原則として入れ替えることが可能だということである。

例： Jeg er tørstig, og jeg er sulten. <私は喉が渇いていて、そしてお腹が空いている。>

等位接続詞 men の場合も同様である。

例： Jeg er ikke sulten, men jeg er tørstig.

<私はお腹は空いていないが、喉が渇いている。>

Jeg er tørstig, men jeg er ikke sulten.

<私は喉が渇いているが、お腹は空いていない。>

次に同位接続詞 så を使った例文について述べる。

例： Jeg er sulten, så jeg vil gerne have noget at spise.

<私はお腹が空いている、なので何か食べるものが欲しい。>

等位接続詞の場合と同様に前後の文を入れ替えると、文意がおかしくなる。

例： ×Jeg vil gerne have noget at spise, så jeg er sulten.

<？私は何か食べるものが欲しい、なのでお腹が空いている。>

したがって、同位接続詞の特徴は結びつけられている文を入れ替えることができないことにあるといえる。もう1つの同位接続詞 for の場合も同様である。

例： Jeg vil gerne have noget at spise, for jeg er sulten.

<私は何か食べるものが欲しい、というのはお腹が空いているからです。>

例： ×Jeg er sulten, for jeg vil gerne have noget at spise.

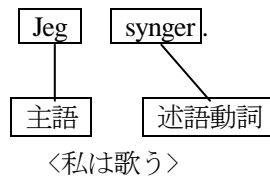
<？私はお腹が空いている、というのは何か食べるものが欲しいからです。>

## 語順

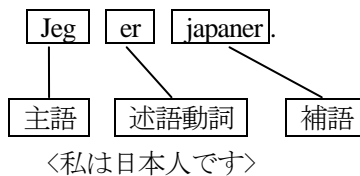
デンマーク語の語順を理解するために、まず文の構成要素について述べる。

### 1. 文の構成要素

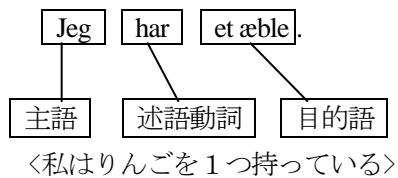
文の構成要素は、それぞれの要素が文中でどのような働きをするかによって区別される。



上の文は、英語文法で言うところの S+V の文型をしており、主語と述語動詞で構成されている。次に、

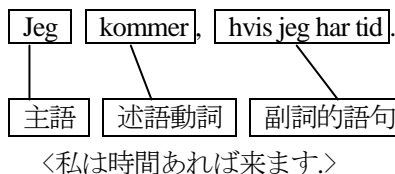
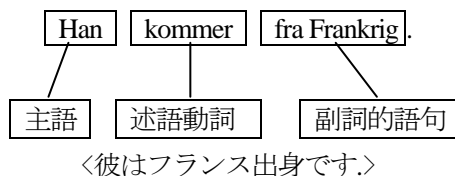
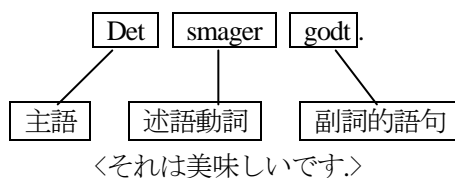


この文は、S+V+C の文型をしており、主語+述語動詞+補語で構成されている。そして、



この文は、S+V+O の文型をしており、主語+述語動詞+目的語で構成されている。

また、文の構成要素として、次の文に見られるように、副詞的語句というものもある。

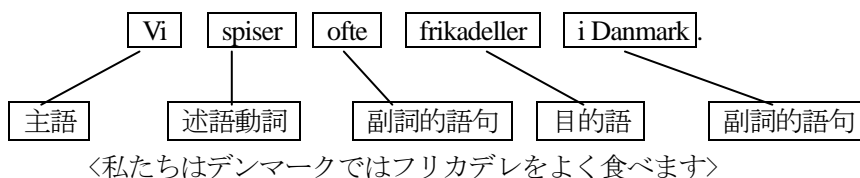


副詞的語句は、godt のように一語である場合もあれば、fra Frankrig のように [前置詞+名詞] であったり、hvis jeg har tid のように従位節の場合もある。

## 2. 完結文の語順

デンマーク語では、上で見たような文の構成要素の種類によって、文中で置かれる場所が異なる。まずは、デンマーク語における完結文の語順に焦点を絞って見ていく。完結文とは、その文が単独で存在することができ、別の文に従属しない文のことである。完結文のうちまずは平叙文（事実について述べる文）の語順を、そして次に疑問文の語順について見ていく。

### 2.1. 平叙文の場合 1



まず、文の初めの要素として、「主語」が置かれている。この文の初めの要素が置かれる場所のことを「前域（文頭域）」と呼ぶ。さらに、「述語動詞」そして「副詞的語句」



句 (ofte) 」が置かれている場所を「中域」と呼び、最後に「目的語」そして「副詞的語句 (i Danmark)」が置かれている場所を「後域」と呼ぶ。以上のことを以下の表に示す。

	前域	中域	後域
要素	主語	述語動詞, 副詞的語句	目的語, 副詞的語句
語 (句)	Vi	spiser ofte	frikadeller i Danmark.

➤ 前域に置くことができる構成要素は1つ。

➤ 中域は必ず述語動詞が先頭にくる。

→述語動詞は、つまり、文全体の中で必ず2番目の要素となる。

→中域に置かれる述語動詞は、定形動詞。定形動詞とは、時制を持った動詞のことで、デンマーク語では動詞の現在形、過去形、命令形を指す。

➤ ofte のように必ず中域に置かれる副詞的語句がある。このような副詞的語句を特別に「中域副詞」と呼ぶ。

前域に「主語」が置かれることもあるが、デンマーク語では、原則として「定形動詞」及び「中域副詞」以外の要素であれば、「主語」以外の要素であっても、前域に置くことができる。それは、特に「主語」以外の要素を話題化させたいときに生じる。

	前域	中域			後域
要素	副詞的語句	定形動詞	主語	中域副詞	目的語
語 (句)	I Danmark	spiser	vi	ofte	frikadeller.
訳	デンマークでは、私たちはフリカデレをよく食べます。				

	前域	中域			後域
要素	目的語	定形動詞	主語	中域副詞	副詞的語句
語 (句)	Frikadeller	spiser	vi	ofte	i Danmark.
訳	フリカデレは、私たちはデンマークでよく食べます。				

このように、前域には、「副詞的語句」や「目的語」を置くこともできる。しかし、先にも述べた通り、前域には1つの構成要素しか置けないため、前域に「副詞的語句」や「目的語」が置かれている場合は、前域に「主語」を置くことはできず、「主語」は中域に置かれる。

➤ 中域内の語順は、「定形動詞」・「主語」・「中域副詞」となる。

— 平叙文の語順：平叙文に含まれる動詞が1つの場合 —

	前域	中域			後域
		定形動詞	主語	中域副詞	
(1)	Jeg	hedder			Liva Jensen.
(2)	I nærheden	er	der	også	en kirke.
(3)	Vi	skal		først	forbi Tivoli hen til Strøget.
(4)	Så	går	vi		lidt ad Store Strandstræde.
(5)	Det	spiser	man		meget i Danmark.
(6)	Det	smager		ikke	godt.

- (1) 私はリーヴァ・イェンスンといます。
- (2) 近くには教会もあります。
- (3) 私たちはチボリ公園を通り過ぎてストロイエズまで行きます。
- (4) それからストアストラNSTレーゼに沿って少し行きます。
- (5) それはデンマークではよく食べます。
- (6) それは美味しくありません。

## 2.2. 平叙文の場合 2

次に、1つの平叙文の完結文の中に、定形動詞と不定形動詞の両方が存在する場合の語順について述べる。上でも述べたが、定形動詞とは時制を持った動詞のことで、デンマーク語では動詞の現在形、過去形、命令形を指す。また不定形動詞とは時制を持たない動詞のことで、デンマーク語では不定詞形、過去分詞形、現在分詞形を指す。

例： Jeg **vil** gerne **se** Den lille Havfrue. <私は人魚姫（の像）が見たいです。>

Vi **skal** **lave** aftensmad hjemme hos mig. <私たちは私の家で夕食を作ります。>

Jeg **kan** godt **lide** frikadeller. <私はフリカデレが好きです。>

Han **har** **været** i Japan tre gange. <彼は日本に3回来たことがある。>

Toget **er** lige **gået**. <電車はちょうど行ったところです。>

I går **blev** hun **rost** af sin lærer. <昨日、彼女は自分の先生に褒められた。>

イタリック体の vil, skal, kan, har, er, blev はそれぞれ現在形そして過去形をしているので、定形動詞である。尚、上で確認したように、定形動詞は中域の先頭に置かれる。それはまた、平叙文の完結文においては、定形動詞が文全体の2番目の要素となることを指す。

次に、下線付きの se, lave, lide, været, gået, rost はそれぞれ不定詞形そして過去分詞形

をしているので、不定形動詞である。不定形動詞は、中域には置かれず、後域の先頭に置かれる。上記の例文を語順表を用いて示すと以下ようになる。

前域	中域			後域	
	定形動詞	主語	中域副詞	不定形動詞	その他の要素
Jeg	vil		gerne	se	Den lille Havfrue.
Vi	skal			lave	aftensmad hjemme hos mig.
Jeg	kan		godt	lide	frikadeller.
Han	har			været	i Japan tre gange.
Toget	er		lige	gået.	
I går	blev	hun		rost	af sin lærer.

### 2.3. 疑問文の場合 1

ここでは、完結文の疑問文の語順について述べる。まず、Ja / Jo あるいは Nej を用いて答えることができる疑問文（以下、全体疑問文と呼ぶ。）について見ていく。全体疑問文を語順表にあてはめると以下ようになる。

	前域	中域			後域	
		定形動詞	主語	中域副詞	不定形動詞	その他の要素
(1)		Er	det			rigtigt?
(2)		Kommer	hun	også		fra Frankrig?
(3)		Har	I	ikke		sådan en i Japan?
(4)		Skal	vi	også	købe	drikkevarer?
(5)		Har	du	nogensinde	været	i Danmark?
(6)		Er	han		blevet	gift?

- (1) それは本当ですか？
- (2) 彼女もフランス出身ですか？
- (3) あなたたちは日本でそのようなものは持っていないのですか？
- (4) 飲み物も買いませんか？
- (5) これまでにデンマークに行ったことがありますか？
- (6) 彼は結婚したのですか？

➤ 全体疑問文の語順で、特徴的なことは、前域にどんな文法要素も置かれないということである。

## 2.4. 疑問文の場合 2

次に、疑問詞を用いた疑問文を語順表にあてはめると以下のようになる。

	前域	中域			後域	
		定形動詞	主語	中域副詞	不定形動詞	その他の要素
(1)	Hvad	hedder	du?			
(2)	Hvor	kommer	han			fra?
(3)	Hvornår	flytter	du?			
(4)	Hvorfor	har	du	ikke	ringet	til mig?
(5)	Hvem	skal	I		besøge	i aften?
(6)	Hvor længe	har	han		været	i Norge?

- (1) あなたの名前は何かですか？
- (2) 彼はどこ出身ですか？
- (3) あなたはいつ引っ越しますか？
- (4) どうして私に電話しなかったのですか？
- (5) 今晚、あなたたちは誰を訪ねるのですか？
- (6) どれくらいの間彼はノルウェーにいたのですか？

➤ 疑問詞は必ず文頭（前域）に置く。

## 2.5. 完結文の語順をとる接続詞 1

接続詞も文を構成する要素の1つである。ここでは、完結文の語順をとる接続詞について取り扱う。

例： Der er en bred seng. Og der er også en lampe i loftet. Men der er ikke nogen tæpper på gulvet, så jeg vil selv købe et lille tæppe.

〈幅の広いベッドが1つあります。そして天井にはランプもあります。しかし床にはカーペットがありません、なので私は自分で小さなカーペットを買います。〉

最初の文、Der er en bred seng. の語順に関しては、上で見たとおりである。それに続く、Og der er også en lampe i loftet. の文頭にある og は、〈そして〉という意味を表す等位接続詞である。この og は前域の直前に置かれ、それに続く文は、完結文の語順になる。

接続詞	前域	中域			後域
		定形動詞	主語	中域副詞	
Og	der	er		også	en lampe i loftet.

また次に続く、*Men der er ikke nogen tæpper på gulvet* の文頭にある *men* は、〈しかし〉という意味を表す等位接続詞である。この *men* も前域の直前に置かれ、それに続く文は、完結文の語順になる。

接続詞	前域	中域			後域
		定形動詞	主語	中域副詞	
Men	der	er		ikke	nogen tæpper på gulvet

➤ 等位接続詞に導かれる節は完結文の語順をとる。

## 2.6. 完結文の語順をとる接続詞 2

2.5.で使用した例文の残りの部分、*så jeg vil selv købe et lille tæppe* の文頭にある *så* は〈それで〉という意味を表す同位接続詞である。この *så* も前域の直前に置かれ、それに続く文は、完結文の語順となる。

接続詞	前域	中域			後域	
		定形動詞	主語	中域副詞	不定形動詞	その他の要素
så	jeg	vil		selv	købe	et lille tæppe

➤ 同位接続詞に導かれる節は完結文の語順をとる。

## 2.7. 従位節を含む場合

従位節も、文の構成要素である。ここでは、完結文が従位節を含む場合の語順について見ていく。従位節を含む完結文を語順表にあてはめると以下ようになる。(イタリック体の部分が従位節に当たる。)

	前域	中域			後域	
		定形動詞	主語	中域副詞	不定形動詞	その他の要素
(1)	Vi	legede		tit		sammen, <i>da vi var børn.</i>
(2)	<i>Hvis du har tid,</i>	kan	vi		tage	derud nu.
(3)	Jeg	tror,				<i>det tager ca. ti minutter.</i>
(4)	<i>Siden jeg var lille,</i>	har	jeg	altid	været	glad for dyr.
(5)	I går	var	han	ikke		på arbejde, <i>fordi han var syg.</i>

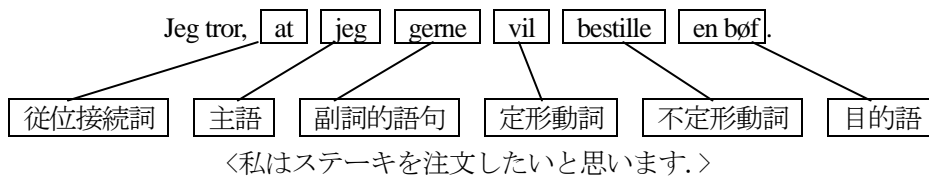
- (1) 私たちは子供のころ、よく一緒に遊んだ。
- (2) もしあなたに時間があれば、今からそこへ行けます。
- (3) それは 10 分ぐらいかかると思います。
- (4) 私は小さいころからずっと動物が好きだ。
- (5) 彼は病気だったので、昨日は仕事に出ていなかった。

▶ 従位節は前域にも置くことができる。その場合には、従位節の直後は、主節の定形動詞→主節の主語という語順になるということに注意する必要がある。

### 3. 従位節の語順

ここでは、従位節内の語順について述べる。従位節は、単独では完全な文としては成立しないので、従位節内は完結文の語順は適用されない。

以下の例を使って、従位節での文構成要素がどのような順番になっているのかを確認する。以下の例では、**jeg tror**〈私は～と思う〉の部分の主節で、**at** 以下が従位節である。したがって、ここで着目するのは **at** 以下の語順である。



まず、従位節内の初めの要素として、「従位接続詞 (at)」が置かれる。この従位節の初めの要素が置かれる場所のことを「従位接続語域」と呼ぶ。(従位節は文中の一要素なので、前域(文頭域)が存在しない。)それに続いて、「主語 (jeg)」、「副詞的語句 (gerne)」、「定形動詞 (vil)」が置かれている場所を「中域」と呼び、最後に「不定形動詞 (bestille)」そして「目的語 (en bøf)」が置かれている場所を「後域」と呼ぶ。以上のことを表に示すと以下のようなになる。

従位接続語域	中域			後域	
	主語	中域副詞	定形動詞	不定形動詞	その他の要素
at	jeg	gerne	vil	bestille	en bøf.

- ▶ 従位接続語域には、従位接続詞の他に、関係詞や疑問詞などが置かれる。
- ▶ 主語は、必ず従位接続語域の直後に置かれる。
- ▶ 中域副詞の位置は、完結文の語順とは異なり、主語と定形動詞の間である。

以下に様々な従位節を含む例文(従位節はイタリック体の部分)を示し、そのあとで従位節の部分の語順を表に示す。

例: *Når han ikke er i godt humør*, går han en tur til stranden.  
 〈彼は機嫌のよくないときは、海岸へ散歩に行く。〉

Det er ærgerligt, *at du ikke kan komme*. <あなたが来られないのは残念だ.>

Den ring, *hun altid har på*, er en gave fra mig.

<彼女がいつもしている指輪は、私からのプレゼントだ.>

Han har sagt, *at han godt ville hjælpe os med at flytte*.

<彼は、私たちが引っ越すのを手伝っても構わないと言っていた.>

Så skal jeg finde på noget andet, *der er billigere*.

<それでは、もっと値段の安い何か別のものにしないと.>

Min storesøster har meget travlt, *fordi hun lige har fået et nyt job*.

<私の姉は新しい仕事を得たばかりなので、とても忙しくしている.>

従位接続語域	中域			後域	
	主語	中域副詞	定形動詞	不定形動詞	その他の要素
når	han	ikke	er		i godt humør
at	du	ikke	kan	komme	
(som)	hun	altid	har		på
at	han	godt	ville	hjælpe	os med at flytte
———	der		er		billigere
fordi	hun	lige	har	fået	et nyt job

➤ 従位接続詞 *at* や関係代名詞 *som* は、省略される場合がある。

➤ 関係代名詞 *som* は、従位接続語域にあると解釈されるのに対して、関係代名詞 *der* は中域の主語の位置にあると解釈される。

#### 4. 完結文の基本語順から外れる場合

いくつかの場合には、完結文であっても、その基本語順から外れる場合がある。

例： I Japan spiser man det ikke råt. <日本ではそれを生では食べません.>

この文を完結文の語順にあてはめてみると以下ようになる。

前域	中域				後域	
	定形動詞	主語	?	中域副詞	不定形動詞	その他の要素
I Japan	spiser	man	det	ikke		råt.

完結文の基本語順では、中域には「定形動詞」、「主語」そして「中域副詞」が置かれていた。しかしながら、上の例からも分かるように、中域内で、「主語」と「中域副詞」の間に *det* という、本来であれば後域に置かれる「目的語」が置かれている。

語 順

この文と比較するために、例文中 *det* を *kinakål* に変えた場合の語順について見てみる。

例： I Japan spiser man ikke kinakål rå. <日本では白菜を生では食べません>

前域	中域			後域	
	定形 動詞	主語	中域 副詞	不定形 動詞	その他の 要素
I Japan	spiser	man	ikke		kinakål rå.

この場合は中域には「定形動詞」、「主語」そして「中域副詞」が置かれ、「目的語」の *kinakål* は後域に置かれている。つまり、「目的語」が *kinakål* である場合と、*det* である場合とでは語順が異なるということになる。

*kinakål* と *det* の違いは、*kinakål* が名詞であるのに対して、*det* が人称代名詞であるということである。デンマーク語では、名詞には原則として常に強勢が置かれる。これに対して、人称代名詞は「対比」などの特別な意味の場合には強勢が置かれるが、原則として強勢は置かれない。

したがって、I Japan spiser man ikke kinakål rå. の場合は、目的語の *kinakål* に強勢が置かれているので、通常完結文の語順となるのに対して、I Japan spiser man det ikke rå. の場合は、目的語 *det* が人称代名詞で、なおかつ強勢が置かれていないために（＝弱強勢目的語）、リズムの関係で、中域副詞の直前に移動したものと解釈される。同様の理由で基本語順から外れる例文を以下の表に示す。

	前域	中域			後域	
		定形 動詞	主語	弱 目的語	中域 副詞	不定形 動詞
(1)	I Japan	spiser	man	det	ikke	rå.
(2)		Vi	kender	ham	ikke.	
(3)		Jeg	ved	det	ikke.	
(4)		Han	besøger	hende	tit	
(5)	Hvorfor	spørger	du	mig	altid	om det?
(6)		Lad	os	så		komme af sted!

- (1) 日本ではそれを生では食べません。
- (2) 私たちは彼のことを知りません。
- (3) 私はよく分かりません。
- (4) 彼は彼女をよく訪ねる。
- (5) どうしてそのことについていつも私に尋ねるのですか？
- (6) それでは出発しましょう！



**注意！**

この「弱強勢目的語の移動」は、文が定形動詞（現在形、過去形、命令形）のみを含む場合に適用される。したがって次の例文のように、文が定形動詞と不定形動詞を含む場合には適用されない。

例： Har du nogensinde mødt ham? <これまでに彼に会ったことがありますか？>

この例文でも、人称代名詞 ham は強勢の置かれない（弱強勢の）目的語だが、中域副詞 (nogensinde) の直前に移動することはない。

## 5. 注意を要するその他の構文

### 5.1. Der-構文

デンマーク語では、「～があります」というように「存在」を表す構文は、Der er + 名詞の未知形で表される。このタイプの構文は der-構文と呼ばれるが、語順では特に der の位置に注意する必要がある。

	前域	中域			後域	
		定形動詞	主語	中域副詞	不定形動詞	その他の要素
(1)	Der	er				tre æbler på bordet.
(2)	I nærheden	er	der	også		en kirke.
(3)		Var	der			mange mennesker til festen?

- (1) テーブルの上にリンゴが3つある。
- (2) 近くには教会もある。
- (3) パーティにはたくさんの方がいましたか？

➤ 中域の主語の位置に置かれるのは、der であって、意味上の主語 (tre æbler, en kirke, mange mennesker) は後域に置かれる。

### 5.2. 強調構文

強調構文とは、「det er ～,」という主節と、それに続く従位節で成る文のことで、det er のあとにくる要素に焦点を当てる機能を持つ。

例： Peter har købt en tysk bil i Japan. <ピーダはドイツ車を日本で購入した。>

→ Det er Peter, der har købt en tysk bil i Japan.

<ドイツ車を日本で購入したのはピーダだ。>

→ Det er en tysk bil, Peter har købt i Japan.

<ピーダが日本で購入したのはドイツ車だ。>

→ Det er i Japan, Peter har købt en tysk bil.

〈ピーターがドイツ車を購入したのは日本でだ。〉

### 5.3. 交錯文

交錯文とは、従位節内における述語動詞以外の要素を、文頭に移動させた文のことである。その移動させた要素に焦点を当てる機能を持ち、話し言葉では好んで用いられる。

例： Jeg synes, (at) det er bedst at rejse til Japan i oktober.

〈私は 10 月に日本に旅行するのが一番だと思います。〉

→ I oktober synes jeg det er bedst at rejse til Japan.

〈10 月が、私は日本に旅行するなら一番だと思います。〉

→ Japan synes jeg det er bedst at rejse til i oktober.

〈日本が、私は 10 月に旅行するなら一番だと思います。〉